Shall We Juggle?

日本ジャグリング協会オフィシャルマガジン No.62

特集

JJF2020
Japan Juggling Festival 2020

JJOS2020
Japan Juggling Online Stage 2020

もくじ

特集JJF2020	3
JJF2020開催概要	4
JJF2020コンセプト	6
実行委員長インタビュー1 JJF実行委員長　上田 尚弥	7
実行委員長インタビュー2 JJF実行委員長　花田 充	10
理事インタビュー　JJF担当理事　星野 充宏 ／ 理事長　吉永 裕紀	13
オフライン会場　報告	16
ワークショップ	32
オンライン会場イベント報告	33
ジャグリングイラスト特集	36
新型コロナウイルス感染症対策について	38
ゲストインタビュー • Arttu Lahtinen	40
ゲストインタビュー • MAYU	44
ゲストインタビュー • KOMEI ／ おこたんぺ。	46
ゲストインタビュー • Yuta	50
Japan Juggling Online Stage 特集	54
日本ジャグリング オンラインステージ 審査委員総評	57
日本ジャグリング オンラインステージ 決勝出場者	58
日本ジャグリング オンラインステージ 入賞者コメント	60
JJF2020　活動報告	61
理事会から	62

たまにっき

「新型コロナウイルス」
一緒にジャグリングしたかった！！
これは昨年のJJF2019特集号の「たまにっき」の書き出しと同じです。
残念ながら今年も「いつものJJF」をすることができませんでした。

2020年は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、いろいろなことが制限されました。
日常生活ではたくさん我慢をしました。
辛いこと、苦しいこと、悔しいことが数え切れないほどありました。

ジャグリングについても同様でした。
練習会が行えない。新規部員の勧誘が困難。
舞台やイベントを開催することも参加することもできない。
何よりJJF2020 in Fukuiを通常開催することができない。
ジャグリングから離れた方もいました。
正直に申し上げれば、私自身もジャグリングに対しての気持ちが離れかけ、なんとか繋ぎとめている時期がありました。

ただ、そのような状況下でもジャグリングを愛し、未来へ繋ぐために活動してきた方々がいました。
工夫を凝らした新しいジャグリングイベントがありました。
形式を変更してのJJF2020開催やJJOS2020の実施もその一つです。
そのような方々の思いを記録として残すことがSWJ編集部としての活動であり、使命であるのかもしれません。

JJF2019特集号の「たまにっき」の最後の文章と同じではありますが、これが私の思いです。
少しでもジャグリングの楽しさが、皆さんに伝わりますように。
そしてあなたのモチベーションを維持するための、少しでもお役に立ちますように。
色々なことがありますが、どうか日々穏やかに、ジャグリングと過ごすことができますように。

さまざまな思いを込めたJJF2020/JJOS2020特集号を、ぜひお楽しみください。

SWJ編集長　たまきゆかり

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、政府からの都道府県をまたぐ移動およびイベントの自粛方針を考慮し、福井県にて開催を予定していた『JJF2020 in Fukui』の開催形式が変更になりました。

JJF2020 in Fukui / JJF2020

イベントの名称は『JJF2020』とし、次の内容で開催をしました。

方針

1
- 日本各地の会場にてジャグリングイベントの同時開催を行う。

2
- 各会場をオンラインで繋ぎ、プロジェクターにより各会場の様子を閲覧できる。

3
- オンラインでは有志によるワークショップや動画鑑賞会などを実施する。

4
- 各会場だけではなく、参加者個人でもオンラインイベントに参加できる。

開催形式の変更経緯

2020年 5月	新型コロナウイルス感染拡大のため、完全な形での JJF2020 in Fukui の開催中止を決定し、JJF2020 in Fukui 実行委員会を解散、今後の検討を開始。
6月	様々なジャグリングイベントが新型コロナウイルスの影響を受け中止していること、2019 年、2020 年と JJF の完全開催ができない事でジャグリング界の発展が停滞することを懸念し、理事会にてオンラインイベントの実施を決議、承認。
7月	新たなオンラインイベントの実行委員長に就任した上田尚弥氏と会議。新オンラインオフラインイベント実行委員会を設立し、以下イベントのドラフトを作成。
8月	イベントの名称を JJF2020 とする。 イベントの実行委員長に花田充氏が就任し、共同代表となる。
9月	20 日（日）・21 日（月）に JJF2020 開催。
10月	開催から 2 週間が過ぎた 5 日（月）時点で、オフライン会場の参加者から新型コロナウイルス感染の報告が日本ジャグリング協会に届いていないため、JJF2020 完了報告を掲載※。

※詳細は JJF2020 活動報告（p.61）をご確認ください。

JJF2020 開催概要

オンライン会場

Discord と YouTube Live を用いて開催しました。

Discord ※閉会に伴い公開を終了しました。

YouTubeLive

9 月 20 日（日） 11:00 ～ 18:30
https://youtu.be/h5BUQ5qAFHw
最大同時接続数 60　再生数 1100

9 月 21 日（月） 10:00 ～ 19:15
https://youtu.be/0sElANpJRfQ
最大同時接続数 52　再生数 700

ゲストステージ

開催日時 2020 年 9 月 20 日（日）
20:00 ～ 21:00

配信方法 Vimeo

申込人数 252 名

オンライン会場スタッフ

オンライン責任者・上田 尚弥　Discord 担当・星野 充宏　Discord 担当・尾納 宗仁
司会・磯部 拓海　配信補佐・高橋 千夏

開催概要 オフライン会場

開催日時 2020 年 9 月 20 日（日）・21 日（月）
※開催時間は各会場スケジュールに準じて実施。

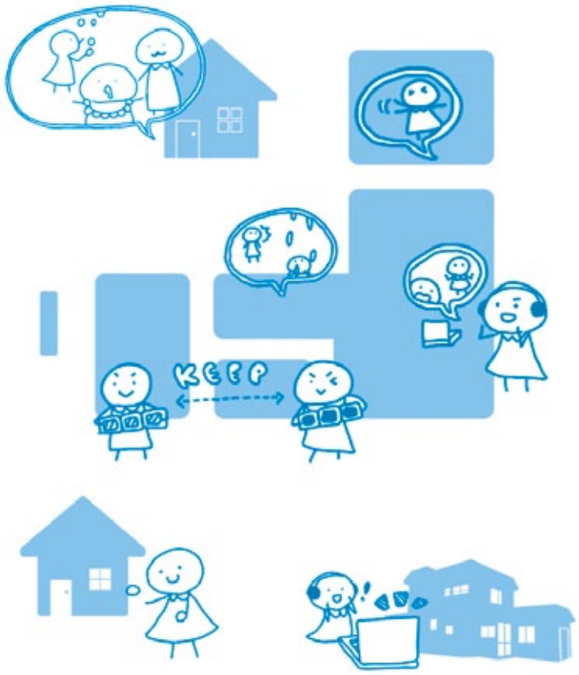
開催場所 北海道、宮城、東京、愛知、福井、大阪、福岡、沖縄

JJF2020 コンセプト

あなたの家が、JJF会場に。

2020年。世界中で新型コロナウイルス感染症が拡大しました。
その影響は国内でも甚だしく、イベントの開催自粛や、都道府県をまたいだ移動の自粛などが求められるようになりました。
このため、全国のジャグリングを愛する人達がひとつの都市に設けられた会場に一同に集う、21年間絶え間なく続いた従来の形式でのJJFの開催は難しくなってしまいました。
そして福井で開催を予定していた、JJF2020 in Fukui の開催方針を再検討することを余儀なくされました。

国内最大のジャグリングイベントであるJJFの開催が中止されることは、日本ジャグリング協会が目的とする国内のジャグリングコミュニティの発展にとって大きな障害となります。 開催形式を変更してでも開催したい、そこで目をつけたのがオンラインプラットフォームです。
コロナ禍において数多くのイベントがオンラインに移行していきました。
JJFをオンラインに移行する、つまり、「あなたの家をJJF会場にする」ことは、これまでJJFが抱えていた、JJFの開催都市との地理的な隔たりや、人数制限による参加にあたっての障壁が大きいという課題をクリアすることができるはずです。



みなさんの家から、各都市の会場から、一緒に JJF2020 を盛り上げましょう！そして日本のジャグリングを盛り上げましょう！

JJF2020 実行委員会

実行委員長インタビュー

JJF 実行委員長　上田 尚弥

●聞き手　SWJ編集長　たまき ゆかり

開催までの経緯

たまき（以下、た）　まずは「JJF2020」開催までの経緯についてお伺いしたいと思います。『JJF2020 in Fukui』の開催が見送りになり、JJF担当理事の星野さんから誘われて、上田さんが今回、JJF実行委員として参加されたと聞いています。いつ頃から参加されたんでしょうか。

上田（以下、上）　6月初旬の時期に誘われたのはよく覚えています。最初はJJFとは明言されずに星野さんから打診を受けたのですが、時期的にJJF関連であることと、かなり状況が切羽詰まっているのだろうなと察しました。実行委員長の花田さんみたいに運営の経験が豊富な人が居るんじゃないかと思いました。私自身、そんなにジャグリング的に交友関係が広いわけでもなくて、そんな中で私に依頼するということは、他に頼れそうな方はすぐに動けない状況にある可能性が高いのかなと。私は今年に入るまで、いわゆるジャグリングの練習会みたいなイベント運営もほとんどやったことがなくて、運営経験は2020年に入ってから舞台を1回やったのと、「e-Juggling Competition」というオンライン大会を2回やった経験があるだけでした。ただここで星野さんからの誘いを断ると、あとで自分が後悔しそうだなって思ったんですよね。自分が断ったらきっと誰か他の人が頑張ってくれたとは思うんですけど、もし、今年のJJFは全て中止になりましたみたいな結果になったら、後味の悪い感じで、自分の中でモヤっとしちゃうだろうなと。頼られることってそんなに多くはないし、ここまで大きい頼られ方は、なかなかないじゃないですか。そこまで期待してもらえるんだったら、あまり無下にしたくないっていう気持ちは、人間誰しもちょっとあると思うので、今回引き受けたという経緯があります。

た　いきなり実行委員長に任命されていかがでしたか。

上　例年のJJFに運営として関わってきた人間ではないので、違和感はありましたね。ただ、自分の中の違和感や感情はいったん気にしないようにして、全体の状況をすごく客観的に見るようにしていました。自分がやりたいか、やりたくないかよりは、やったらどうなるか、やらなかったらどうなるか、みたいな。今、どういう状況なんだろうとか。実は、「JJF2020」は最初オンライン開催のみのイベントとして予定されていて、私はその実行委員長になるように打診されていましたが、完全オンラインのみのイベントとして、WJD2020が6月に開催された実績があり、準備をすれば、全体を中止にしなければならないというリスクも軽減することができます。その上で各会場を全部プロジェクターで繋ぐことで、何か面白いことができそうだと考えました。7月の中旬からようやく動き出して、方針も決まって「オンライン＋オフライン」で開催することになりました。星野さんや吉永さんとお話ししたときに、七大都市圏（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡）を中心に組んだらいいんじゃないか、というアイディアが出たので、それぞれの都市の責任者を任せられる方を探して、それぞれの会場運営を担っていただけるようお願いしていきました。会場等の関係で調整がつかない都市が出たことや、コロナ禍で移動が制限されていることから必ずしも大都市圏で開催することが最適解とは限らないという考えを踏まえて、最初の案から会場の増減を行いました。当時の情勢を鑑みると、例えば沖縄に会場が存在しない場合、沖縄県特有の県外への出にくさ故に沖縄県に住んでいる方がオフライン会場に参加できる可能性が極めて低いことになるので、そういった具合に状況を踏まえ開催都市の調整を進めていきました。そんな中で『JJF2020 in Fukui』の実行委員長である花田さんに、吉永さんから「JJF2020」の方針をお伝えし、実行委員会のすり合わせをしたのが8月初旬でした。花田さんは『JJF2020 in Fukui』に並々ならぬ熱意を持っていた方で、『JJF2020 in Fukui』として開催できなかったことはおそらく身を切るような思いだったと思います（※）。ですが、日本のジャグリングの将来のためにJJFを開催していくことが重要なのではないか、福井会場を会場の一つとして生かすことで『JJF2020 in Fukui』の実行委員の方々の目指したものがほんの少しでも実現できるのではないか、といった色々な話をしました。納得できなかった部分もあったかもしれませんが、吉永さんや星野さんを交えた話し合いの結果、共同実行委員長として実行委員会に戻ってきていただきました。

（※注釈『JJF2020 in Fukui』は2020年9月19日（日）～9月21日（月・祝）に福井県うやったらそれ以上の価値を提供できるのかは案がないまま引き受けることとなりました。

た　時系列としては6月に誘われて、その後に「オンライン＋オフライン」開催の構想がまとまり、8月に本格的に始動という流れでしょうか。「オンライン＋オフライン」の発想は上田さんからと聞いていますが、その思いつきが、結果としてすごく面白いイベントになりますよね。

上　6月の下旬に星野さんと吉永さんと3人でお話ししたときに「オンライン＋オフライン」という発想を思いつきました。オフライン会場としては分散開催をすれば、全体を中止にしなければならないというリスクも軽減することができます。その上で各会場を全部プロジェクターで繋ぐことで、何か面白いことができそうだと考えました。7月の中旬からようやく動き出して、方針も決まって「オンライン＋オフライン」で開催することになりました。星野さんや吉永さんとお話ししたときに、七大都市圏（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡）を中心に組んだらいいんじゃないか、というアイディアが出たので、それぞれの都市の責任者を任せられる方を探して、それぞれの会場運営を担っていただけるようお願いしていきました。会場等の関係で調整がつかない都市が出たことや、コロナ禍で移動が制限されていることから必ずしも大都市圏で開催することが最適解とは限らないという考えを踏まえて、最初の案から会場の増減を行いました。当時の情勢を鑑みると、例えば沖縄に会場が存在しない場合、沖縄県特有の県外への出にくさ故に沖縄県に住んでいる方がオフライン会場に参加できる可能性が極めて低いことになるので、そういった具合に状況を踏まえ開催都市の調整を進めていきました。そんな中で『JJF2020 in Fukui』の実行委員長である花田さんに、吉永さんから「JJF2020」の方針をお伝えし、実行委員会のすり合わせをしたのが8月初旬でした。花田さんは『JJF2020 in Fukui』に並々ならぬ熱意を持っていた方で、『JJF2020 in Fukui』として開催できなかったことはおそらく身を切るような思いだったと思います（※）。ですが、日本のジャグリングの将来のためにJJFを開催していくことが重要なのではないか、福井会場を会場の一つとして生かすことで『JJF2020 in Fukui』の実行委員の方々の目指したものがほんの少しでも実現できるのではないか、といった色々な話をしました。納得できなかった部分もあったかもしれませんが、吉永さんや星野さんを交えた話し合いの結果、共同実行委員長として実行委員会に戻ってきていただきました。

（※注釈『JJF2020 in Fukui』は2020年9月19日（日）～9月21日（月・祝）に福井県

産業会館（イベントエリア）、福井市文化会館（ゲストステージ）で開催を予定していた。しかしながら新型コロナウイルス感染症拡大のため、2020年5月に開催中止の判断をし、花田氏が実行委員長を務めていた『JJF2020 in Fuku i』実行委員会は解散していた。）

た　花田さんは実行委員を長く経験されていらっしゃるので、すごく頼りになりますよね。

上　頼りになります。もちろんJJFの実行委員としての経験も豊富ですが、物事を俯瞰的に見る力や、運営のボトルネックになっている部分を発見して即座にサポートする力など、色んな面で優れていて頼りになる方だなと感じています。花田さんが実行委員会に戻ってきてくださった瞬間に、花田さんの仕事が早すぎていい意味で自分にも焦りが出てきて、そこから一気に準備が加速しました。花田さんは自分がやるべき仕事の範囲を、すごくよく分かっていらっしゃって、優先順位のつけ方も非常にうまいなと思いましたね。花田さんの仕事ぶりが実行委員長として本当に刺激になりました。本当は途中から誘われて参加した私よりも、『JJF2020 in Fukui』が開催見送りになって、決死の覚悟で戻ってきてくれた花田さんのことをみんなに知ってほしいです。最後のミーティングの時に「福井でJJFを開催できて本当に幸せでした」と言ってくださったんですが、それがとても嬉しかったですね。本当はもっと言いたいことがたくさんあって自分の感情を抑えつけてないかは心配だったりしなくもないんですけど。多分、大丈夫なんでしょう。私が心配するほどのというか、私なんかが心配してもしょうがないって。今回の「JJF2020」の運営で初めて関わった吉永さんもそうなんですが、花田さんや吉永さんみたいに、世の中にはとんでもない人間がいるんだな、この人たちには一生敵わないな、みたいなことを思いました。ここまで適わないなと思わせてくれる人ってそんなにぽんぽん会えるわけじゃないと思うんですけど、こんな短期間にそういう人たちと何人も出会えて一緒に運営をできて非常にいい経験ができたなと思いました。ジャグリングイベントだけじゃなく、今後の人生の色んな場面で今回のJJFで得たものを生かしていけそうだなって感じました。

当日の様子

上　オンラインでオフライン会場を繋ぐというポテンシャルある発想がたまたま出てきたのが、すごく救いだったかなと思っています。もっと詰めていけば、よりポテンシャルを発揮できる開催形式だったと今でも思います。

た　オフライン会場ごとのJJFがあって、すごく面白かったです。地域や参加団体の特色や雰囲気によって特色あるJJFが開催されていたように思います。

上　今後より一層の発展の可能性を強く感じるJJFになりましたね。今年のオフライン会場だと、それぞれの会場の参加者の皆さんがホワイトボードで遊んで他会場と交流してくれたり、例えば北海道会場はクラブを握りしめてウオーッとカメラの前で遊んでみたり、踊ってみたりと大暴れしていましたね。福岡会場は、筋トレしているし、それぞれの会場が面白くてすごかったです。

た　JJF当日はオンライン担当として、どんなお仕事をされていたんですか。

上　JJF当日は朝から晩までYouTubeやVimeoでの映像配信をするのが主な仕事でした。特に、トラブルが発生したら即座に対応が必要なので、ずっと付きっ切りで確認している必要があり、それが一番大変でしたね。Zoomの自分のPCを経由せずそのままYouTubeに送って放送することもできるのですが、その場合だとすべての会場の映像が常に放送される状況になってしまいます。オフライン会場のすべてのカメラの前にずっと人がいるわけではないので、人が居ない会場の映像はYouTubeに送らないようにといった調整をしていました。別端末で配信を再生することでちゃんと放送できているかを確認したり、オンライン会場のDiscordに荒らしが来ないように監視もしていました。あとは準備スケジュールの関係で、初日の段階ではまだゲストステージの放送用映像が完成していなかったので、裏でその動画編集をしていました。各会場の様子で印象的だったのは、ある会場でワークショップをやっているときに、他の会場の人が体育座りをして、しっかりとワークショップを聞いていたり、ワークショップの講師の方と、ボディランゲージみたいな感じでコミュニケーションを取っていたりしたことです。会場を超えて双方向にコミュニケーションができていて、意外とうまくいっていたんだなと感じました。またDiscordでの座談会も盛り上がり、Discord会場に入れない参加者がいるくらい人を集めることができたことも印象的でした。

「JJF2020」を終えて

た　実際に「JJF2020」をやってみて、当初の目指すクオリティではできたか、あるいはもっといけたかな、などいかがでしたか。

上　本音を言うと、特にオンライン会場の部分に関して、当初目標としていたクオリティには到達できませんでした。先行してオンラインイベントで開催されていたWJD2020には届いてなかったんじゃないかなと感じました。なぜ目標としていたクオリティに到達できなかったのか考えてみると、私はJJFの実行委員長とオンライン会場の責任者を兼任していたのですが、JJFの運営全体をうまく回すのに必死すぎて、自分の担当のオンライン会場の準備に時間を割くことができなかったことが大きいかなと思います。今回「JJF2020」で使用したDiscordというツールを参加者の皆さんが使い慣れていないと考えていたので、もっと誘導をしっかりしてあげるなどやりたいことはありましたがそこまで手が回らなくて悔しかったです。また、「JJF2020」の開催後に花田さん主催の36時間オンラインジャグリングイベント『零』があったことも大きいですね。今回の「JJF2020」や、私が主催をしているオンラインジャグリング大会「e-Juggling Competition」は、あくまでもこれまでオフラインにあったものをオンラインで代替したものに近いイベントです。「コロナがない世界でも、このイベントをやる、やってよかった、やる価値のあるイベントをやる」というコンセプトでやっていた『零』を見てしまうと、これが答えか、と感じることがありました。私はどうやら代替イベントを短い納期で用意することが比較的得意で、新しい価値を生むようなイベントを作ることはあまり得意でないようで、そんな自分ではたどり着けない領域だなと感じました。『零』に関しては、その理念を作り上げた花田さんに強い尊敬の念を抱きました。当初は「JJF2020」でも新しい付加価値を提供したいと考えていました。自分で主催するイベントではなく協会主催のイベントなので、これまでのイベントの単なる代替にならないよう、新しい付加価値の提供を含めて何かをしないといけないという気持ちはずっと持っていました。ただ、全体を運営することに時間を割いていたため、それが全部できないで終わってしまったような感じはあります。

た　正直言ったら悔しさが残る感じですか。

上　悔しいかというと実はそうでもなくて、JJFの実行委員長を引き受けてからずっと全力でできる限り最大限のことはやっていたので、これ以上何かできたかというとそうではないんだろうなと思っています。もちろん、もっと準備時間を取れたらこういう部分にしっかり手を加えられたらよかったんだろうなと思う部分はいくつもあります。恐らくですが、オンライン会場では「ジャグリングを楽しんでいる人たちを眺めていたい」という人たちのニーズには添えたような気がしているものの、「一緒にみんなでジャグリングをしたい」と思っている人たちのニーズにはあまり添えなかったことは心残りです。例えばエンデュランスでは、リアルタイムで一緒に戦えるような、オンライン会場・オフライン会場それぞれの会場にいる人と、もっと戦えたり交流できたりするような作り方があったんじゃないかな、という気持ちがあります。もちろん、今回の開催形式でも十分楽しんでもらえていたような気もするんですが、もし来年、また同じ形式でJJFが開催されるのなら、もっと良いやり方があるんじゃないかなと思います。

今後のジャグリングイベント

た　2020年は新型コロナウイルスの感染拡大により、様々なイベントが中止になったりとか、開催様式が変わったりしました。ご自身もオンラインジャグリング大会「e-Juggling Competition」を開催されていますが、まだ先が見えない中で、今後のジャグリングイベントに期待することはどんなことですか。

上　2020年の現段階では、例年あったイベントがほとんどなくなってしまったっていう印象が強いですよね。この時代だからこその新しい価値を見出していきたいという気持ちも、もちろんあるんですけど、まずは復旧にエネルギーを使わないといけないのかなっていう気持ちがありますね。もちろん『零』みたいに、新しいものちゃんと創ろうと動ける方には、ぜひ動いていただけたら、それはすごく全体のためになるので良いと思います。ただ、大会をモチベーションに生きてきた人、交流しないとモチベーションがわかないって人はそれらがなくなってしまったことによって、もうジャグリングをやめてしまっている人が多い状況です。そういう方たちを、昔と同じだけのモチベーションに戻してあげられるようなイベントがあるといいですね。そのためにも、まずイベントの数が大事かなという気がしていて、1年に1回のJJFだけだと、人のモチベーションが回復しきらないところがあると思います。今、改めてオフラインで大会をやろうって流れが出てきているので、オンライン大会だったりオフラインイベントだったり、元の多様性があった頃の時代に戻るといいなと思っています。

最後に一言

上　まずは、このような情勢の中、私たち運営を信じて「JJF2020」に参加してくれた方々にお礼を言いたいですね。皆さんが参加してくださったおかげでまた来年以降に繋げていくことができます。

また、短期集中の厳しい運営ではあったのですが、快くいろんな仕事を引き受けてくださったスタッフの皆さんや、相当の無茶をお願いしたにも関わらず何とか実現できるようバックアップしていただいた日本ジャグリング協会関係者の皆様にも大変感謝しています。本当にありがとうございました。

ここからは今後の話なのですが、今回の「JJF2020」に関わってくれた人って、運営に協力してくださった方も、相当にジャグリングに関わりが深い方々ですよね。いわゆるそう簡単にジャグリングやめないよね、みたいな人たちの集まりだと思うんです。一方、このコロナ禍でジャグリングをやめてしまった方というのは、そういったディープなかかわり方をしている人ではなく、どちらかというとライト層の人が多いイメージなんですよね。会場責任者をはじめとした運営に協力してくださった方々もそうなんですけれど、こんな時期にわざわざ今回JJFに参加してくれたような方々には、ぜひ、これから一緒にジャグリング界を盛り上げていってほしいなと思っています。ジャグリングに深くかかわっている人たちが先導してジャグリング界を盛り上げていくことで、ライト層の方も「楽しそうだしまたジャグリングやってみようかな」と思ってもらえたらとても良いなと思います。人がいなくなってしまったらすごく寂しいし、これを読んでいる人たちはジャグリングってすごく面白いって、それは分かっていると思うので。そういう気持ちを、それを失わないようにというか、新しい人たちにどんどん伝わっていけるようなジャグリング界にできたらいいと思うので、ぜひ一緒に頑張っていきましょうっていう感じですね。

た　一緒に頑張っていきましょう。インタビューありがとうございました。

実行委員長インタビュー

JJF 実行委員長　花田 充
聞き手　SWJ編集長　たまき ゆかり

『JJF2020 in Fukui』と「JJF2020」について

たまき（以下、た）『JJF2020 in Fukui』の開催中止までの経緯というよりは、花田さんしか答えられない気持ちの面をお伺いしたいのですがいかがでしたか。

花田（以下、花）　絶望しました。悲しくて。勢いで十キロぐらい走りましたね。

た　思いが発散できましたか？

花　全然できませんでした。取りあえず走ろうと思い、気がつけば十キロ走っていたみたいな。世の中の情勢から中止は何となく分かるじゃないですか。（※2020年は新型コロナウイルス感染対策により、イベント等の開催が自粛されていた。）ただ、いざ開催中止って聞くと、人は感情が動くもので『JJF2020 in Fukui』ができなくなったんだなと感じて絶望しましたね。

た　今年の「オンライン＋オフライン」JJFの開催準備が進む中で、その絶望した気持ちを解消したり整理したりすることはできましたか？

花　整理できてないです。これは非常に複雑です。『JJF2020 in Fukui』と「JJF2020」を使い分けさせてもらいます。『JJF2020 in Fukui』を一緒につくってきた仲間たちと『JJF2020 in Fukui』はやりたかったなというのがありますし、それは全然消えていません。なので「JJF2020」に合流する際にも、それはちゃんと素直に伝えつつ、自分の中では非常に複雑で。「JJF2020」に力を入れれば入れるほど、福井を裏切っている気持ちがすごくありました。だからといって「JJF2020」に力を入れないわけにもいかず、非常に複雑な気持ちで、折り合いは付いていないんです。日本で『JJF2020 in Fukui』を本当にやりたかった人たちって数人しかいなくて、非常にマイノリティなんですよね、多分。みんな「JJF」がやりたいんですよね、多分。私は『JJF2020 in Fukui』がやりたいって気持ちでした。

た　残念ながら『JJF2020 in Fukui』ができなかった中で、「オンライン＋オフライン」の「JJF2020」ができたと思いますが、準備の段階や実際やってみてのお気持ちを教えてください。

花　私の立場から見た統括的なコメントにはなるのですが、結論から言うと、複雑かつ多様な評価軸の中、均衡の取れた良いところに着地できたと思っています。今回のJJFはいつものJJFと比較して、すごく制約が多くて評価軸が多様です。例えばコロナ対策の面ではこうだ、イベントの楽しさとしてはこうだ、NPO法人としてはこうやりたい、日本のジャグリング界の未来にはこうしていきたいみたいな。日本の社会情勢というのもコロナ禍であったりとか、去年の「JJF2019」が一部、台風で中止になったりとか、東京オリンピックが延期になったりとか、背景も複雑で、かなり特殊だったと思うんですよね。そんな中で何かを取れば何かを失うみたいなトレードオフの状態で、いい均衡を保ったなと。妥協ではなく、いい所に着地したのではないかと私は思っています。

た　制約が多い、先ほどの最初の開催のときにも『JJF2020 in Fukui』がしたい人、JJFがしたい人、いろんな思いや制約がある中での開催で、花田さんの中での今回のJJFは、やってみてよかったのか、それともやっぱり福井でやりたかったっていうところなのか、気持ちはどうですか。

花　それはどっちもです。これもまた難しい話なんですけど、私はイベント運営をよく掛け持ちするので、どれがいいとかじゃないんですよ。どれもいい、全部いいじゃん、全部やろうぜって感じなんです。先ほども言ったように『JJF2020 in Fukui』はもちろんやりたかったし、今でもやりたいと思っているぐらいなんですよ。一方で「JJF2020」が悪かったかといわれたら、そんなことはなくて。「JJF2020」で良かったことは、全国各地のメンバーでJJFの運営ができたことです。理由が二つあって、一つ目はジャグリングイベントとしての感染対策のノウハウが全国にたまったのが、今後のジャグリングイベントを開催する上で良かったと思っています。二つ目は今後のJJFを運営してくれる可能性のある人たちがいっぱい集まったなと思っています。

花田さんとイベント

た　36時間オンラインジャグリングイベント『零』（2020年9月26日（土）・27日（日）に開催された36時間オンラインジャグリングイベント。花田氏が代表を務めた。）をはじめとした色んなイベントを運営されていて、うまく言葉で表現できなくて申し訳ないのですが「JJF2020」にも、花田さんの愛はあったって考えていいんでしょうか。JJF2020実行委員会の会議に参加させてもらいましたが、実行委員長として引っ張っていく、という印象をあまり受けなかったのですが。

花　愛はありますよ。それが見えにくいだけです。役割の違いです。例えば、私はオンラインで開催されたWJD2020（World Juggling Day in OSAKA　2020年6月20日（土）・21日（日）に開催されたイベント。2020年はオンライン上で開催。）の運営にも参加したんですけど、そこでは制作的なポジションです。つまり誰かがやりたいと言った企画をひたすら形にしていく人です。『零』は企画側かつ代表のポジションなので、引っ張っていく人。イベントによって見え方が全然違うと思います。私の中にも何人かイベントを作る花田がいて、それぞれがその役割を全うしているだけでいて、それがよかったと思っています。

す。「JJF2020」ではそんなに目立ってないと思います。「JJF2020」はもう一人の実行委員長の上田さんが引っ張っていって、私は制作的なポジションだなと思ったので、あまり口を出さずに、ひたすら言われたことをやるみたいな。JJF2020の形式が新しかったのと、運営にJJF運営経験者が少なかったので、私が企画側の意見を言い出すと発散するなと思って。当日を迎えることが何より大事だろうなと最初で判断したので、私は守りに入った感じです。「JJF2020」の形式に関してちょっと無理があるなってところはいくつかあったので、そこを無事に開催できるように例年の運営の視点で丸めていった感じですね。

「JJF2020」を守りに入っている人に、愛はそんなに感じられないでしょうね。仕方ないです…。

た　イベントそれぞれでの花田さんの役割がある、それを知らないまま、私は外から見ていたので、なんだか花田さんがあんまり前に出てこないから、「JJF2020」に愛はあるのかな、みたいなことを心配してしまいました。制作はそのイベントが実現できるように、という役割があるんですね。それを知らずに「引っ張っていくことが実行委員長の役割だ」として花田さんを見たら見方が違いますね。

花　そうですね。意図的に出してないんですよ。制作側に回ったときはあまり出ないようにしているんです。

た　理解することができました。ありがとうございます。今の私と同じように、何も知らずにどっちのイベントにも参加していたら、花田さんのお名前はあるけど見え方が違ったので、そこにかける思いがどうだったのかなって思う人もいるかなと思って質問しました。

花　多分、私が常識外れなことをしているだけなんで。あんまり共感されないですよ。イベントを掛け持ちするって普通、有り得ないんで。しかも掛け持ちしながらポジション変えるって、なかなか理解されることじゃないんで。理解されないなって思いながら生きているんで、大丈夫です。

花田さんの原動力

た　数多くのジャグリングに関するイベントを企画・制作するなど、何が花田さんをそんなに突き動かしているんでしょうか。

花　成長と好奇心ですかね。それが軸にあって、あとはイベントは非日常なものだと私は思っているんですけど、非日常なものが日常を変えてくのがすごくいいなと思っています。あとはこれもキーワードですけど『生涯ジャグリング』って言葉が私はとても好きで、『生涯ジャグリング』な世界を作りたいんですよね。無理矢理押し付けるつもりはないんですけど『生涯ジャグリング』な世界になるにはどうしたらいいかなって考えたら、イベントを作るかって感じで動いています。

た　花田さんの考える『生涯ジャグリング』を教えていただいてもいいですか。

花　一言で言うと、生涯にわたってジャグリングと関わることです。関わるっていうのは、ざっくりいうと、ジャグリングをすることと、ジャグリングを見ること、ジャグリングについて考えることだと思っています。ジャグリングをし続けるだけではないところがミソですね。あとは『生涯ジャグリング』はジャグリングを辞めることを肯定します。『人生長いんだから、ちょっとくらい辞めてもいいじゃん、でもジャグリングに戻ってこられるといいよね。』くらいの感じですね。ジャグリングと関わることが続くのがいいのかなって。

た　確かに今は何となく、ジャグリングのイメージって、自分がプレイヤーではないと、ずっと続いていくものではなくて、プレイヤーとしてできなくなったときにもう終わってしまうっていう感じがありますもんね。そうではなく、日常にスポーツとか観戦するのに近いような感覚でいいんですよね。昔、自分はプレーしていて、今はしないけど、見るのが好きでとか、考えたりするのが好きでみたいな。それに近いような感覚にジャグリングもなっていけば、という感じでしょうか。

花　そうですね。私の見える世界はそうだといいなと。

花田さんの背景

た　花田さんの企画したイベントで、私が最初にすごいなって思ったのが、JJFでの新入生交流会と二回生交流会でした。いろんな目線を持って、あったらいいなってイベントをしてくださるから、自分が参加する立場だったら嬉しいなと思って。どうして交流会というようなイベントを考えるようになったんでしょうか。

花　福岡出身で地方育ちなんで、それが原体験になっているんですよね。仲間はいたけど基本的には一人でジャグリングしてきたし、そういう人たちに居場所を作ってあげたいって気持ちがあって。JJFの中では新入生はマイナーと言ってもいいくらいの小さいまとまりになるんで、そういう人たちが輝ける場所を作りたいなって気持ちがあります。

た　地方のJJFも楽しいですよね。私、本当に福岡開催のJJF2017が楽しかったです。（JJF2017 in Fukuoka。花田氏が初めて実行委員会に参加したJJF。）

花　楽しかったですね。

た　地方でのJJFはその地域らしい楽しさがあるので、きっと『JJF2020 in Fukui』も楽しいものになったんだろうなと思います。今回は「JJF2020」の福井会場として実際に行かれたと思うんですけど、どんな様子でしたか？

花　地方にしかない一体感、あと、ここ最近のJJFにない一体感を感じました。JJFが始まったときは、多分あんな感じだったんだろうなっていうのが何となく想像できるような、ここ最近の数百人規模のJJFにはない一体感があったんですよね。福井会場は非常に若くて、高校生ジャグラーが多かったんですよ。お互いに顔見知りだったのも、もちろんあるとは思うんですけど。それでも北陸の参加者がいたり、ちょっと遠くて関西から来ている方もいらっしゃったりする中で、会場全体で盛り上げようっていう感じがよかったです。沖縄で開催されたワークショップを全員がプロジェクターで見るとか、ここ最近のJJFでは考えられなかった光景でした。また、最後に記念撮影をしたんですけど、それも印象に残っています。私と福井会場副責任者のゆん君と、二人で声掛けさせてもらって、参加者全員で動画を撮ろうと声をかけたところ、

みんなで協力してくれて、全員で協力してもらわないと撮れないような動画になりました。これがもし『JJF2020 in Fukui』で参加者が日本中から集まっていたら難しかったんだろうなとは思いました。地方の温かさじゃないですけど、よく都会と地方でいわれる人間味じゃないですけど、人のつながりなのかな、そういうものをとても感じましたね。福井会場は一体感がよかったです。

た　一層『JJF2020 in Fukui』やりたくなったんじゃないですか。

花　それはもちろん。そうなんですよね。

た　『JJF2020 in Fukui』は準備の段階から理念が決まっていて、私も開催が楽しみだなと思っていました。欲を言わせてもらえるなら、いつか開催をお願いします。

花　そうですね。機会があれば是非。

これからのジャグリングイベント

た　今後のジャグリングイベントでこういうイベントを作りたいなというのはありますか。

花　日本版EJCですかね。どんなイベントなのかまだ決まってないです。全然、決まってないんですが、これだけは言えます。24時間ジャグリングすることと、24時間ジャグリングをしなくてもいいことが両立できるイベントを作りたいと思っています。生涯ジャグリングですね。

た　面白そう！それは参加したいですね。それは長い目で見ての、今後のイベントとしてやってみたいことですか？

花　3年、5年ぐらいのスパンで今、考えていますね。

た　途中でも言いましたけど、本当によくイベント企画者としての気持ちが途切れないですね。

花　不思議ですね。

た　3年、5年のスパンでジャグリングイベントを考えられるって、なかなかいないと思います。

花　なかなかいないですね。

た　今後のジャグリングイベントとしては、長いスパンでみたら、日本版EJC。短いスパンだと、企画されているイベントはありますか。

花　これからしばらくはサポート側に回ろうと思っていて、サポートするイベントは決まっています。イベントの主催は1年ぐらいは多分ないかなって感じですね。面白いと思ったら作りますけど。気が付いたらやっているかもしれないんですよね。それが私の悪い癖で。気が付いたら会場、押さえているんで。

た　かっこいいな（笑）。なんか花田さんらしいなって思いました。

花　仕方ないです（笑）。ありがとうございます。

た　最初、JJF2017でお会いしたとき、イベントを企画するようなイメージなかったです。

花　ここ1、2年で、イベントづくりに急に熱が入って。あと掛け持ちできるようになったのが、ここ数年なんです。

た　すごいですね。熱もしかり、技術もしかり、いろんなことが上がって。出会った2017年はそんな感じはなかったんですね。

花　ないです、安心してください。ちょっとイベントを頑張ってみようっていう、普通の学生でした（笑）。

『JJF2020 in Fukui』について

た　現状、来年のことが何も決まってないJJFですけど、花田さんから見て、どうなったらもっとよくなっていったり、面白くなっていったりすると思いますか？

花　「理念を達成できるかどうか」あとは「参加者の日常をいかに変えられるか」だと私は思っています。私はイベントの作り手として、この二つを重視していて。なので、JJFがどうなればいいかってことで言われると、理念がしっかり定まって、かつ理念に向かってイベントが作られていくのがいいのかなって思っています。

た　もし、の話になってしまいますけど『JJF2020 in Fukui』が開催されていたら、私たちが初めて見るようなJJFになっていましたか？

花　『生涯ジャグリング』への貢献が理念なんですけど、それが達成されるイベントになっていたと思います。一緒にやっていた実行委員会のチーム内では、こういう企画をやりたいよねって話まで進んでいて、あとは作るだけってところで中止が決まったので。私の中では結構、見えていたんですよ。これが『生涯ジャグリング』への貢献だなっていう。他には準備段階でテーマカラーを決めたり、ウェブサイトを刷新して統一感を出したり色々ありました。私はイベントを作るときに世界観とかをすごく大切にしているので。ちょっと今までのJJFと『JJF2020 in Fukui』は違うなっていう。

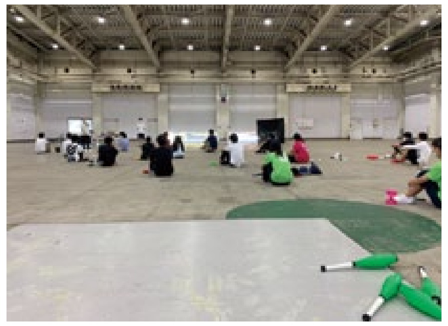
た　いいイベントに、なるところだったんですね。ちょっとしんみりしてしまいました。

最後に

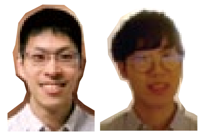
た　今回のインタビューの最後に一言をお願いします。

花　どうしようかな。最後は『Shall We Juggle?』へのお礼になります。なかなかこういう話をする機会がなかった、表に出す場がなかったので、いい機会になったなと思っています。読者への一言ではないんですけれど、インタビューされなかったら、誰にもこの思いを話さずに過ごしていたのかもしれないので、この機会、非常にありがたかったです、最後の締めはこれですね。

た　お話しできて良かったです。インタビューありがとうございました。



理事インタビュー



JJF担当理事　星野 充宏
理事長　吉永 裕紀

●聞き手　SWJ編集長　たまき ゆかり

開催までの経緯

たまき（以下、た）　まずどのような経緯で「JJF2020」は「オンライン＋オフライン」開催をすることになったのか、教えていただきたいです。

星野（以下、星）　日本ジャグリング協会では毎年12月くらいから翌年のJJFに向けた活動を行っています。もともと『JJF2020 in Fukui』の活動を2019年から行っていたのですが、2020年3月くらいから新型コロナウイルス感染症が、全国的に拡大しており、政府の緊急事態宣言が出るのか出ないのかといった状況でした。その頃から、理事会としてもこのままJJFが行えるのかどうかといった話は常に出ていました。4月の段階で、私の方から理事会に『JJF2020 in Fukui』の開催ができるのかどうか相談をさせていただきました。そのときにオンラインの開催ができるのかどうかということも相談をし、最終的には5月の段階でオンライン開催が承認されました。

しかし、そのときに検討していたものは、今回のようにオフラインのイベントを混ぜたものではなく、オンライン単体のイベントでした。JJFは理事会だけではなくて、JJF実行委員会がいなければ成り立たないものですが、今回の「JJF2020」実行委員会の実行委員長となっているのが、上田さんと花田さんのお二人です。最初にオンラインの担当として声掛けさせていたのが上田さんなんですけれども、上田さんと一緒にお話しをさせていただいたときに、今回の「オンライン＋オフライン」開催のJJFの骨格ができて、それが最終的に理事会で承認されたのは7月でした。そのため、7月から9月までの2カ月間が、今回の「JJF2020」開催の準備期間ということになると思います。

た　かなりのタイトスケジュールですね。

星　そうですね。スケジュールはかなり厳しい状況で始まりました。今回、2020年12月に開催するという方針もあったのですが、次々とジャグリングイベントが開催自粛になる最中で、開催までの時期が空いてしまうと、ジャグリング界にイベントがない状況が続くのはどうなのか、といったことだったり、また新型コロナウイルス感染拡大の状況がみえない中、感染拡大の第二波、第三波の影響がどう続くのかといったことがまだ分からないといったことがあったりしたので、当初の開催時期である9月に「JJF2020」を開催しました。

た　「JJF2020」の骨格ができるまでは、なかなか皆さんに情報公開は難しかったということですね。

星　そうですね。会場の都合もあるんですけれども、やはり理事会内でどういった開催形式になるか、方針を定めることが難しかったということが大きいと考えています。直前までオフライン会場を押さえられるかどうか分からなかったので、情報公開が遅れました。

吉永（以下、吉）　「JJF2020」の9月開催というのは、振り返ると良いタイミングを選べたと思っています。コロナのようないわゆる感染症は空気が乾燥していると状況が悪化しやすく、9月以降には第二波が来るだろうと思っていました。だからなるべく早めに開催したいと思っていて、ただ、開催が早過ぎると運営体制が整わないという課題がありました。当日が終わっても開催後2週間は油断できない状況でした。見えないものとの戦いでしたからね。特に不安は大きかったです。今回いいタイミングで開催できて、参加者の新型コロナウイルス感染者がゼロに抑えられたことを、星野さんと喜んでいました。

た　ちなみに「オフライン会場やるの？」みたいな反対意見というのは理事会内では起きたのでしょうか。

星　反対意見というか、一応、やる方針で進めようかなって話はしていました。ただ、やはり状況が見えないというのがかなり大きくて、今回、オフライン会場が8か所ありましたが、開催は各会場のほうで慎重に判断しなければいけないね、ということは話していましたし。各地の感染状況によっては、会場を閉鎖する措置は、理事会でしなければいけないという話はしていました。慎重に進めるという話で認識は一致していたと思っています。

た　絶対、駄目だよ、やめようよみたいな感じの雰囲気は起こらず、本当に慎重にJJFをやっていこう、という雰囲気が理事会としてはあったということですね。

星　そうですね。

吉　理事会で一番強かったのはやっぱり危機感ですね。もう2020年はいろんなジャグリングイベントがなくなってしまっていたから、ジャグリング界のために本当に何かしないといけないと思う一方で、どうするかというときに、「オンライン＋オフライン」が一番アイデアとして強かったんです。これをいかにうまくやるかっていうところに集中したっていうことで、想いが一致していました。

た　理事会の思いが一致していたということはすごいなと思います。私の感想になってしまって申し訳ないのですが、最初に「JJF2020はオフラインとオンラインでやります」と告知されたときに、正直言って「この状況下の中で本当にオフライン会場やるの？」と思いました。事前の感染対策ガイドラインの作成しかり、当日の感染対策しかり、こんなに準備が大変なことをよくやるなっていう。ただ、今は実際に開催している様子をみて、当日の参加者の楽しい顔であったり、感想を見ていたりして、本当に理事会の皆さんが思い切った決断をしてくださって、実行委員会がしっかり準備してくださったおかげだなと思い、本当に感謝の気持ちでいっぱいになっています。

星　今回「ＪＪＦ２０２０」の「オンライン＋オフライン」開催におけるポイントのとしては「イベントの開催を進めるけれども、ただ第一にイベントが行えるかどうか、いつ中止の判断をするか」ということが、かなり重要でした。理事会で「各会場の地域における感染拡大の状況が政府の定めるイベントが開催できない状況であれば「ＪＪＦ２０２０」の開催は即中止ということを念頭に置いて事前準備をする」そのことを承認いただいた上で準備を進めたことが大きいと思っています。理事会としてイベント開催承認をして準備を進めるんだけども、感染状況によっては即中止にするという判断も一緒に行い、臨機応変に開催可否を対処できる要素を「ＪＪＦ２０２０」に持たせていたこと重要であったと思っています。

開催してみて

た　実際「ＪＪＦ２０２０」を開催してみていかがでしたか。

星　私は当日のＤｉｓｃｏｒｄの監視など、オンラインスタッフみたいな立ち位置での関わりとなりました。当日は予期せず良い意味で、オンライン会場とオフライン会場が交流をしていました。あとはイベントで挙げるとエンデュランスはオンラインとオフライン、双方で参加者がいて、オンライン参加者が、各種目で参加していたのがほぼ笑ましいし、そんな様子が見られたことに驚きました。オンライン、オフラインのイベントとして成り立ったことが、かなり良かったと思っています。「オンライン＋オフライン」でのエンデュランス開催は、もとは上田さんの発案なんですけれども、オンライン、オフラインで見えない敵と戦うという感覚としてはかなり面白かったし、ユーザーの満足度が高いイベントだったんじゃないかと考えています。

た　「ＪＪＦ２０２０」のコンセプトが「あなたの家が、ＪＪＦ会場に」ですが、実際にＪＪＦ会場にいる人と、家にいる人とで交われたのは、コンセプト通りだし、面白かったなっていうふうに思っていました。エンデュランスしかり、今年らしい感覚になったイベントだったなと非常に感じました。

星　そうですね。司会の方もかなり難しかったと思うんですけど、司会の方がすごいうまく実況していただいて、それでオンラインで見ていても、誰が最後まで残るのかといったことが、かなり臨場感があってすごく面白かったと思っています。

た　吉永理事からみて「ＪＪＦ２０２０」はいかがでしたか。

吉　大変でしたが、多くの方のおかげで成功させることができました。実行委員長の２人が本当に良く動いてくれたこと、救護・感染症対策統括のまさやんさんが専門知識を持ってしっかり事前準備と当日対策をしてくれたことにあらためて感謝をしています。

花田さんがイベント慣れしているので、Ｄｉｓｃｏｒｄ周りやタイムテーブル組みしっかりやってくれました。上田さんは配信や８拠点の多くのスタッフをしっかりとまとめて、当日に誰がどんな動きをしているか、どこでどんな機材が必要かっていうのを全部、把握できていたんで、本当に２人の役割分担がすごくきれいにできていてそのおかげでイベントが全部形になっていました逆に１人だと絶対、回らないし、３人いてもコミュニケーションロスが起こると思います。同じ想いを持った、あのスキルの高い２人だからこそ、何とか成り立ったんだというのは感じていますね。そして、まさやんさんが専門知識を活かし、西野理事がＪＡやＪＦとしてこういうことしないといけないという指針を明確に持っていたので、うまくスキルを補い合って、感染対策ガイドライン等を完成させました。結果、すごいスピードで準備をして、新型コロナウイルス感染者がゼロで収まったことにほっとしています。

た　すごい２カ月でしたね。皆さん、お疲れさまです。

吉　すごかったですね。ありがとうございます。

振り返り

た　ＪＪＦ２０２０の準備や当日で振り返りがもしあれば、お聞きしたいです。

星　当日でいえばオンラインの担当として活動したので、オンライン目線での振り返りになりますが、実行委員長かつオンライン担当の上田さんの負担がかなり大きくなってしまった点です。オンライン担当の上田さんを例にすると、オンライン会場の様子をライブ配信して、その後にはゲストステージに関しては配信準備の全て行っています。オンラインイベントのスタッフとしては他にもいたのですが、オンライン配信関連は分断ができていない、できにくい仕事ではありました。もしかしたら、これは他の担当でもそうだったかもしれないのですが、仕事内容によっては一人当たりの役割や個人の負担が大きくなっていたかもしれません。そういったところに担当理事や理事会が関わり、うまく個人負担を減らすことが実はできたんじゃないか、というのが一番大きな反省点ですね。

ＪＪＦ全体の反省点は結構あるんですけど、人員の工数と日程の工数が取れてないというのが大きくて。日程の工数はもうしょうがないとして、やはり人員の工数として、もう少し補充するべき所に人員補充が足りなかったです。特にコアスタッフの補充が足りてないというのが大きくて、内部のコアスタッフの負担、実行委員長の負担がかなり大きくなってしまったというのが今の状況かと考えています。

今後のＪＪＦ

た　ＪＪＦ２０２１はどのような計画がされているのでしょうか。

星　あくまでゼロベースではあるんですけれども、今、理事会内で話していることとしては「オンライン＋オフライン」開催を再度行うのかどうかといったことを含めて考えている状況です（※インタビューは２０２０年10月実施）。コロナの状況がまだ見えない中で、ＪＪＦ２０２１年度がオンライン、オフラインのイベントを行うのが最善ではないか。今回の成功というか、参加者が会場内で、たくさんの会場で見られたということで、私たちとしては成功として挙げていますし、ＪＪＦ２０２１に関しても、オンライン＋オフラインのイベントが行えたら。最善はやはりオフラインの会場のみで行うことが最善ではあるんですけれども、今、コロナウイルスの感染状況が見えない中で、オフラインの会場一本にするのはやはり厳しいんじゃないかというのが今の状況かと考えています。

吉　多くのジャグラーにとって一番幸せな形を、その時に最適な判断で検討していきます。コロナの状況が落ち着いていれば、ＪＪＦ２０２１はオフラインで７００人の規模でやりたいなと思っています。ただ、オンラインでやることの価値も改めて分かったので、それも可能であれば並行してやる方向で検討したいと思っています。

星　まだちょっと、ゼロベースではあるんですけど、その二つの可能性で今、考えています。

最後に一言

星　実行委員の方々は本当にありがとうございました。私、何もしてないのに本当にいろいろ動いてくれてありがとうございましたということを、一番に伝えたいです。コロナウイルスの影響で「ＪＪＦ２０２０」は「オンライン＋オフライン」のイベントとして今回開催されました。ＪＪＦ２０２１はまた今回、どうなっていくか、まだ見えない状況ではあるんですけれども、参加した皆さんが満足する形でできるように開催していきたいと思っています。

ＪＪＦ理事として私が考えていくこととして、10年後、ＪＪＦがまたジャグリング界の中心として位置し、ＪＪＦがジャグリング会の交流だったり、また競技の場だったり、立ち位置として成り立っていくことが大事だと考えていますす。私のテーマはつなぐだと考えているので、今も来年も再来年もＪＪＦが続くように尽力したいと考えています。

吉　僕はジャグリング協会が、少しずつ変わらないといけないと思っています。今の協会はＪＪＦやチャンピオンシップを運営し、また『Ｓｈａｉ－Ｗｅ Ｊｕｇｇｌｅ?』を発刊しているくらいの団体という認識の方が、多いのではないかと思います。実際の活動のほとんどもそこに集約されています。協会が20年間続いてますが、ジャグリング協会の理念を振り返ると「ジャグリングの普及や振興」を掲げています。それを実現するためにＪＪＦとチャンピオンシップだけで十分なのか、とか、ＪＪＦやチャンピオンシップって今の形じゃなくて、もっと別の形のほうが価値を提供できるんじゃないか？みたいなことも考えるようになりました。

ジャグリング協会の理念達成のために、今年、ジャグリング普及委員会やジャグリング動画制作部門のようなチームを新たに創ってみました。本当の意味で僕たちが成すべきことを成せるチームに、星野さんや理事、皆さんに協力をしていただきながら、２年後には組織自体の取り組みも、大きく変えていきたいなと思っています。

今回ありがたかったことを話すと、この半年ぐらいで理念をベースに考える雰囲気ができてきました。理事会で私は毎回「それは協会の理念的にどうなんですか」みたいなことをずっと言ってきました。ちょっとうっとおしいくらいに（笑）。「それってジャグリング界の発展のためになるからやるんでしたっけ」とか、「それってジャグリング界にとって意味ありますか？」ってずっと言い続けていたら、最近星野さんとかも「これはジャグリング界の発展のためにやるんです」って言ってくれて、みんなが「そうだ、ＪＪＦはジャグリングの発展のためにやらないといけない」っていうふうにどんどん変わってきたんです。理念が浸透してきているなっていうのを強く感じました。今はそういう理事が６人、７人、集まってくれているんで、彼らと一緒にまた新しいことができるんじゃないかなっていう期待は大きいですね。本当に素敵なチームです。

た　最後に理事長からなかなか大きな話題がありましたね。

星　そうですね。でもことはすごく思っていて。日本ジャグリング協会がＪＪＦをするための団体っていうのが、すごく理念にそぐわないので。日本ジャグリング協会としてそういった意味でももっと「変革」ではないけど、新しい挑戦もしていかなければいけないというのは考えていますす。

吉　来年のテーマとしては、星野さんがしっかり繋ぎ続けることで、僕は新しいことに挑戦することですね。

星　そうですね。お願いします。

吉　頑張りましょう！

た　頑張りましょう。インタビューありがとうございました。

JJF2020 Digest Video公開中！

JJF2020での活動を日本ジャグリング協会のYouTubeチャンネルで公開しています。
各会場や各種イベントの様子をダイジェストでご覧いただけます。ぜひアクセスしてみてください。

日本ジャグリング協会
YouTubeチャンネル
https://www.youtube.com/user/JapanJugglingAssoc

JJF2020 Digest Video
https://www.youtube.com/watch?v=AVeePD0OIIc

Japan Juggling Festival 2021 in Tokyo
JJF2021開催決定！
JJF2021は東京にて開催予定！

◆開催日程：2021年10月9日（土）～ 10月11日（月）　◆開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）
※開催情報については日本ジャグリング協会公式Webサイトまたは公式Twitterをご確認ください。

公式Webサイト
https://www.juggling.jp/

公式Twitter
● ジャグリング協会 @juggling_jp
https://twitter.com/juggling_jp?s=20
● JJF @JJFofficial_twi
https://twitter.com/JJFofficial_twi?s=20
● SWJ @swj_edit
https://twitter.com/swj_edit?s=20

オフライン会場

北海道

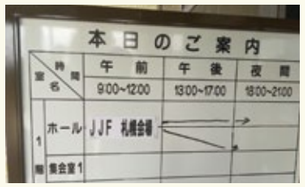
会場

篠路コミュニティセンター

〒002-8023 北海道札幌市北区篠路3条8丁目11−1

参加人数

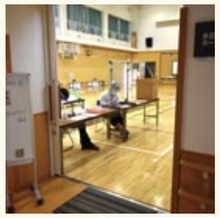
9/20 ● 11名 ／ 9/21 ● 7名

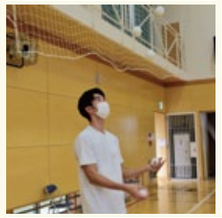


いつか北海道で開催できたらいいなぁ…と思っていたJJFを、思っていたよりも早くに開催することとなりました。実行委員長の上田さんに声を掛けて頂いたときは大変驚きましたが、日本を代表するジャグリングイベントを北海道で開催できたことをとても嬉しく思っております。開催にあたって不安もありましたが、当日は参加者の皆さんが各地のジャグラーとスクリーン越しに交流を楽しんでいる様子を見てほっとしました。北海道は地理的に外部のジャグラーに会える機会が少ないので、今回のイベントはとても良い交流の機会になったと思います。特に指示しなくても自主的に動いて常に支えてくれた北海道スタッフの皆さん、参加してくれた皆さんに改めて感謝申し上げます。今回のJJFをきっかけに、これからの北海道のジャグリング界隈をもっと盛り上げていきたいなと思います。

会場スタッフ

会場責任者	芹川 弘樹
会場副責任者	宮嶋 元希
司会	芹川 弘樹
救護	芹川 弘樹 / 丹内 亮太
イベント担当	宮嶋 元希





宮城

会場

9/20
仙台市 西山コミュニティセンター

〒983-0833 宮城県仙台市宮城野区東仙台6丁目17−1

9/21
仙台市 川内コミュニティセンター

〒980-0865 宮城県仙台市青葉区川内亀岡町63−1

参加人数 9/20 ● 6名 ／ 9/21 ● 0名

この度、ＪＪＦ２０２０宮城会場の責任者を務めました、ＪＪＦに限らず日本各地での交流会や練習会、発表機会が失われ、東北でもみんなで集まってジャグリングすることが困難になりました。そんな中、ＪＪＦ実行委員会の方からＪＪＦ分散開催のお話を伺い、微力ながら私もお手伝いすることとなりました。私の話で恐縮ですが、私は今までのあまりジャグリングの大きなイベントの運営をしたことがなく、今回ＪＪＦという日本で一番大きな、そしてアツいイベントにいきなり関わることとなり不安がたくさんありました。それでも無事に開催できるよう、多くの方と準備を進めました。全体イベントやコロナ対策をどうしたらよいか、実行委員会や各会場の責任者の皆さんと話し合い、当日の会場運営については、宮城会場の当日スタッフの皆さんと何回も打合せしました。特に、ホゴノプロフィス代表の本郷仁一さんにはコロナ対策含め、多くのご助言を頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

当日は、設営や消毒も滞りなく行われ、また参加者も久々に交流ができたことで非常に楽しそうにジャグリングをしているようでした。開催後２週間も特に問題が起こらず、今こうして無事に終わったことを本当にうれしく思います。参加者の皆様にも、ＪＪＦに参加していただいたこと、感染症予防に協力してくださったことに感謝申し上げたいです。本当にありがとうございました。

東北では、過去2回 ＪＪＦ２００３ｉｎ Ｓｅｎｄａｉ、ＪＪＦ２０１５ｉｎ Ｋｏｒｉｙａｍａが開かれました。今回また新たに、「ＪＪＦ２０２０宮城会場」としてＪＪＦが開催され、東北のジャグリング史にページが加わりました（少し大げさでしょうか…）。これからもＪＪＦのようなイベントが東北で開かれることを祈って締めさせていただきます。拙い文章をお読みいただきありがとうございました。

会場スタッフ

会場責任者	津原 駿
会場副責任者	本郷 仁一
司会	津原 駿
音響担当	冨澤 康平
コロナ予防担当兼救護	津原 駿 / 本郷 仁一
受付	谷 峻介（20日のみ） / 鈴木 詩乃
オンライン映像担当	渡部 航也
撮影者	本郷 仁一
イベント担当	廣瀬 航平

宮城会場独自のブレイクアウトを行いました。

・日程：9月20日　15時〜16時
・会場：西山コミュニティセンター 多目的ホール
・内容：参加者６名、運営７名の計13名のジャグラーの交流や雑談
・コメント：道具や世代を超えた人々が集まったので、この機会に交流をしたいと思い、ほぼ突発的に開催しました。初めに自己紹介を行い、サイモンセッズ、ビッグトスアップを行いました。学部２年生から最年長は50歳まで、今までの交流会ではむしろ交流しなかった人たちが交流できたのではないかと思っています。（津原）

東京

会場

9/20
国立オリンピック記念青少年総合センター
スポーツ棟 B1F 第４体育室

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1

9/21
墨田区みどりコミュニティセンター
4・5 階 多目的ホール

〒130-0021 東京都墨田区緑 3-7-3 みどりコミュニティセンター

参加人数

9/20 ● 20 名 ／ 9/21 ● 15 名

続や会場準備、コロナ対策のための受付の仕事内容の確認等行わなければならないのですが、本当にスタッフの方が有能であり、テキパキと働いてくれて本当に助かりました。準備期間中に感動したのはオンラインで各会場がつながっているのを見た瞬間です。「ついにJJFが始まるのか」と思いました。

11時から開場して12時半の開会式までには参加予定者の８割程度集まりました。よく東京で見る人から久しぶりの人、初めて来てくださる人等様々な人がいました。受付はコロナ禍でいろいろ工数が多かったのですが、スタッフがしっかりと働いてくれて安心しました。私自身は一人一人に挨拶をして女将さんのような気持ちでした。

開会式、２m間隔で立っているジャグラーたち。東京会場の雰囲気に助けられながら私は事前に考えていた台本を読み上げました。暫くしてエンデュランスの時間になりました。５ボールが一斉に飛んでいる様子はどこか懐かしさを覚え、マニアックな技をひたすらな面白みを感じます。ビッグトスアップについて全員が高く一つの道具を飛ばしている光景はまさに「圧巻」でした。

Ｙｕｔａさんのボイのワークショップは前日のＬＥＤを用いた演技を見た後のワークショップで「ご本人登場だ」と個人的には感動しておりました。体の使い方から教えてもらえて他の道具の人も参入しやすい内容になっていたのでとても有意義な時間になったのではないかと思います。最後は大阪会場と一緒に締めることができてよかったです。イベント以外の部分ではリングの中に人を映す演出をする人、カメラの前に積極的に出る人、影絵をする人、画面越しで再会を楽しむ人、カメラ越しにワークショップをする人、歓談する人等様々いました。机上では気づかないオンラインやオフラインの楽しみ方というものを気づかされました。コロナ禍の中で少人数の枠でも申し込んでくれた人々には本当に感謝しております。

―最後に―

本当にＪＪＦが開催されて良かったです。それを間近で支えていくことができて私の人生においてすごく中身の濃いひと時になったと思いました。ただＪＪＦの一撃必殺でジャグリングという文化が完全に元通りになるというわけにはいかなくて今後も恒常的に文化を醸成していかなければならないと記事を書いて思いました。是非今後もジャグリングを楽しんでいきましょう。

―任命―

コロナという言葉がニュースで飛び交う中私は東京の会場責任者となりました。最初に会場責任者の依頼が来たときはＪＪＦの開催がまだ検討されていたという安堵と共にこんな異常事態の時先駆者で引き受ける経験は今後無いだろう、ジャグリングという文化を絶やさないようにしなければいけないという使命感を感じ、依頼された10分後には会場責任者を引き受けました。

―コロナ禍での準備―

まずは体育館探しをしました。大変だったことは東京の体育館は基本的に定員50名以下であることでした。「東京なのに少ない定員になってしまう」ことが私としては心苦しかったです。

体育館探しをした後、「ここからイベントを作っていかなければいけないのか」と絶望していたところ、「徳川さんを補佐として付ける」と花田さんから連絡が来ました。本気で救世主だと思いました。やはりＪＪＦのスタッフ側として培ったノウハウで支えてくださったのが本当に心強かったです。自分自身抱え込みやすい性格なのですが、東京会場からのメッセージやコロナ対策等いろいろと共有して自分自身の漏れを埋めてもらえたように思うので、改めて感謝を述べたいと感じております。

―１日目―

11時の開場までにオンラインの接

―２日目―

10時30分からの開場でした。１日目と同じような客層であり、皆さんすでにＪＪＦ２０２０の楽しみ方を知っているような感じでした。

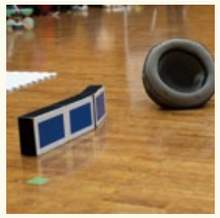
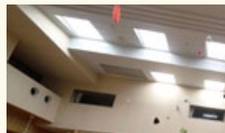
30秒コンテストは５人参加していました。

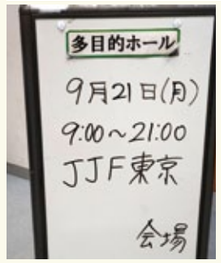
サイモンセッズは会場のほぼ全員が参加してくださいました。参加率が高かったので、最後まで残っている率が高かったように思います。地域間戦争のようなものがあってこれもオンラインの醍醐味だと思いました。

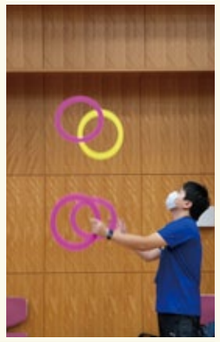
30秒コンテストジュニア部門は一人だけ出てくれたのですが周りの人が応援している中で出てくれて本当に嬉しかったです。

ゲストWSに関しては画面には映らないプロジェクターの前まで寄ってみている方もいました。

KOMEIさんのWSでは「ゲストステージがこの後あるから帰らなければいけないけれども見たい」という気持ちの表れなのかみんな帰るのを悩みながら帰っていくのを見ながら主催としては心苦しい反面すごく価値のあるWSが出来たぁと個人的には思いました。





会場スタッフ

会場責任者	土居 千夏
会場副責任者	徳川 亮祐
司会	てりやき
音響担当	土居 千夏
救護	土居 千夏 / 松原 丈二 / こ～ら
受付	向川 大河 / ひゅうひゅう / まっぱな
オンライン映像担当	こば / 松原 丈二
撮影者	木村 元郁
イベント担当	徳川 亮祐

愛知

会場

半田市 青山記念武道館 大道場

〒475-0836 愛知県半田市青山 2-1-2

参加人数

9/20 ● 32 名 ／ 9/21 ● 32 名

愛知会場責任者を務めさせて頂きました〝しぇりー〟こと小林永律花と申します！〝それぞれの「好き」の形を思い出す場所に〟というキャッチコピーのもと展開した愛知会場でしたが、来場者・会場・スタッフすべてに恵まれた会場だったと思っています。

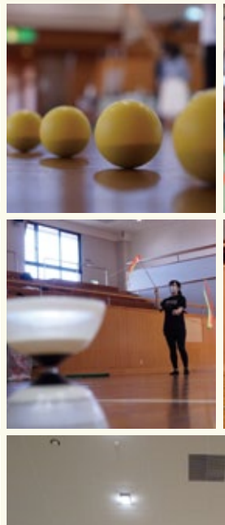
スクリーンに映る全国8つの会場が緩やかに繋がりながら過ごす2日間。ある時には サークル活動の日常風景が、またある時には交流会のような空間がつくられ、私たちがしばらくの間失っていた とても大切な時間が確かにそこに生まれました。

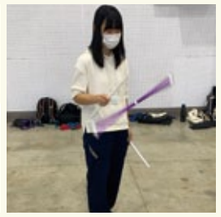
前例のないイベントにもかかわらず足を運んでくださった参加者の皆さまに、この場で改めて感謝したいと思います。また、限られた時間の中で能動的に活動してくれたスタッフ達にも感謝の気持ちでいっぱいです。

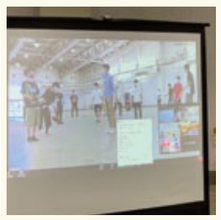
逆境の中だからこそ生まれた今回のＪＪＦ、私自身もジャグリングが好きな気持ちを沢山思い出すことが出来ました。改めまして、ご来場頂いた皆さま、全国のジャグラーの皆さま、本当にありがとうございました！

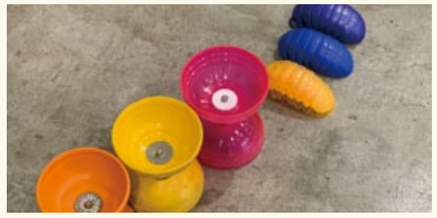
会場スタッフ

会場責任者	小林 永律花
会場副責任者	伊藤 康晃
司会	小林 永律花
音響担当	山田 健人 / 酒徳 航平
救護	岡田 樹也 / 安田 伊織
受付	岡田 樹也 / 安田 伊織
オンライン映像担当	山田 純
撮影者	山田 純
イベント担当	吉田 佳乃子
救護	瀧本 颯
受付	瀧本 颯







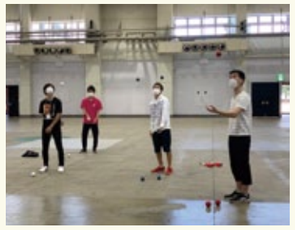


会場スタッフ

会場責任者	花田 充
会場副責任者	尹 泰陽
司会	おとは
音響担当	ぽいっこゆた
救護	尹 泰陽 / マンマミーヤ
受付	長谷川 博紀 / 池田 昂聡
オンライン映像担当	内田 賢人
撮影者	とあ
イベント担当	林 文丸

オフラインイベント

福井



※福井会場の様子についてのコメントはp.10 JJF実行委員長 兼 福井会場責任者の花田充氏のインタビューをご覧ください。（SWJ編集部）

会場

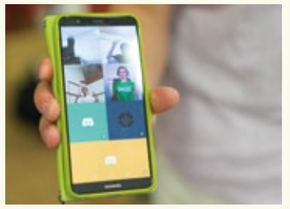
福井県産業会館 第一展示場

〒918-8135 福井県福井市下六条町 103

参加人数

9/20 ● 21 名 ／ 9/21 ● 15 名

大阪



会場

大阪市 大正区民ホール

〒551-0003 大阪府大阪市大正区千島 2-6-15

参加人数

9/20 ● 24 名 ／ 9/21 ● 28 名

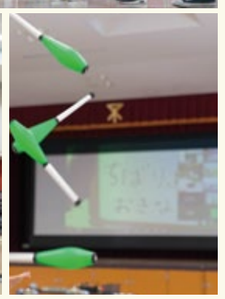
大阪は本来なら収容人数７００人程度の広い会場でイベントを開催しました。実際に現地で参加した方はスタッフを含め40人程度ですが、おかげで広々とジャグリングが出来、十分な社会的距離も確保しつつ各イベントを開催することが出来ました。

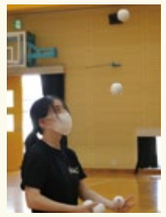
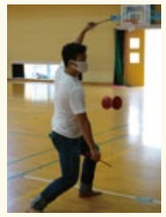
今回のＪＪＦはオンライン・オフライン同時、且つ新型コロナウイルスの影響もあり感染症対策の新たなルールや作業があったりと、初の試みとなる内容が多くなると予想されました。その為、大阪スタッフ内では「無理をせず、決まっていることを、決まった通りに丁寧にやる」といった内容を運営方針として共有していました。これは、ＪＪＦ２０２０の各会場の中でとりわけ大きい会場である大阪が、決めたルールに則り無事にイベントを終えられた実績が、他のイベントでもモデルケースとして活用され、今後、少しずつ大きなイベントの開催に踏み切ることが出来るようになると考えた為です。

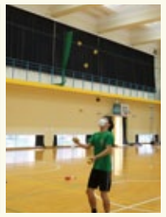
私の所感ですが、他ジャグリングイベントの成果や、別のジャンルとの比較を行う限り、ジャグリングというよりジャグラーが比較的オンラインに強いように感じます。主にはＴｗｉｔｔｅｒ等、ＳＮＳでの交流が普段から盛んであること。ＹｏｕＴｕｂｅ・Ｉｎｓｔａｇｒａｍといった動画でジャグリングを楽しむ方法を知っていること。オンライン化してもそれ相応に楽しめる企画があったこと。今回のＪＪＦはそういった、ジャグラーや界隈の性質にある程度合っていたようにも思います。今後、この方式がより整備され、コロナが収束した後でも、１つのイベント方式として発展していくことが期待でき、非常に有意義なＪＪＦだったように思います。

会場スタッフ

会場責任者	宮田 直人
会場副責任者	きぞはる
司会	藪野 洋祐
音響担当	今村 めぐみ
救護	木村 太郎 / 宮田 直人 / 後藤 猛文
受付	きぞはる / 大山 周吾
オンライン映像担当	元山 直輝
撮影者	木村 太郎
イベント担当	市川 彬秀





会場スタッフ

会場責任者	宍野 恭章
会場副責任者	石川 和彦
司会	宍野 恭章
音響担当	宍野 恭章
救護	近藤 雄一郎
受付	武田 彩 / 近藤　雄一郎
オンライン映像担当	武藤 大河
撮影者	中牟田 淳志 / 久良木 聡太
イベント担当	中村 剛

オフライン会場

福岡

会場

9/20
春日市立 春日原小学校 体育館

〒816-0803 福岡県春日市春日原南町 4-37-1

9/21
春日市立 春日野小学校 体育館

〒816-0811 福岡県春日市春日公園 4-1-1

参加人数

9/20 ● 8 名 ／ 9/21 ● 8 名

この度はＪＪＦ２０２０ オンライン開催にご参加いただき誠にありがとうございました。
未知のウィルスと言われたコロナウィルスに振り回されながら開催が危ぶまれたＪＪＦを、これまた未知のＪＪＦ初のオンライン開催を行うという、前代未聞の試みに会場責任者として参加できたことを嬉しく思います。
会場取得に尽力していただいた春日練習会の皆様にはこの場を借りてお礼を申し上げます。
福岡会場に集まっていただいた参加者は２日間で13名のジャグラーに集まっていただきました。
初めは本当に参加者が集まるかの不安がありました。外出の自粛、大学サークルの活動休止、県外からの参加者が集まらないのではないかと…
蓋を開けてみればジャグリング大好きな地元ジャグラーが集まり、その不安は杞憂で終わりました。
参加者の皆様は新しい様式のＪＪＦに最初は戸惑いもありましたが、自分の練習をする人、プロジェクターの前で他の会場と交流を行う人、クラブバレーを楽しむ人とみなさん少しずつ慣れていっていただけたかなと思います。
しかしながらなんだか毎年行われてたＪＪＦのように県外ジャグラーと面と向かっての交流やスゴ技などを間近でみるということができないのは寂しくもあり、早く日常が戻ってきて欲しいなという思いでした。
コロナが終息してまた一つの会場でたくさんのジャグラーの皆様と交流できる日が来ることを願っております。
またきんしゃいＪＪＦ！

（福岡会場責任者　ｋｙｏ）

沖縄

会場

中城村民体育館

〒901-2407 沖縄県中頭郡中城村安里 190

参加人数

9/20 ● 3名 ／ 9/21 ● 1名

沖縄会場責任者、ボイ魔人こと近藤葵です。

この状況下で、なんとかＪＪＦが開催でき、無事終了できて、本当によかったです。協力してくれたスタッフ、運営の方々本当にありがとうございました。

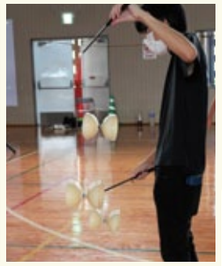
沖縄会場では、大学の活動制限の関係上、参加者がとても少なく小規模な開催となってしまいました。しかし、他会場と独自のＺＯＯＭを繋ぎ、色々と交流したり、ドローンによるジャグリング撮影会をしたりと、様々な工夫により他会場に負けないくらい盛り上がりになったのではと思います。

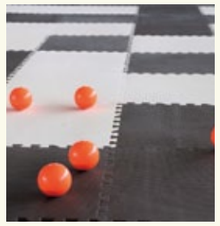
参加者からは、普段は関われないような内地のジャグラーとＺＯＯＭごしに関われ、とても楽しかった。普段は、数万円近くかかる費用が、とても安価に抑えられた。などポジティブな感想がもらえ、開催してよかったと思いました。

今後、どのような情勢になるのか、わかりませんが、今回のような形式のイベントをブラッシュアップし、新たな形式のジャグリングイベントとして、定着していけばいいかなと思います。

会場スタッフ

会場責任者	近藤 葵
会場副責任者	慶留間 知樹
救護	内原　渉 / 大熊 泰輔
受付	山崎 玲 / 知念 大聖
イベント担当	知念 大聖





オンライン会場イベント報告

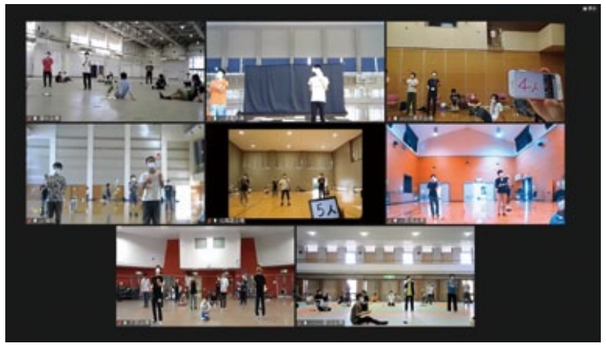
サイモンセッズ

サイモンセッズとは、司会者の指示する命令を最後までボールを落とさずこなすことができた人が勝ちというゲームです。ボールを３つで誰でも楽しめます!
今年は全会場をオンラインで繋ぎ、同時に開催しました。

参加者は司会者の命令に従い、ジャグリングの技などを行います。ただし命令は必ず「サイモンセッズ」で始まります。「サイモンセッズ」で始まらない命令に従ってしまった場合は失格となります。「サイモンセッズ」で始まる命令の内容を実施できなかった場合も失格となります。

> 例：「サイモンセッズ、カスケード」→カスケードを行う「ミルズメス」→ミルズメスを行ってしまった場合失格

ボールをドロップした場合も失格となります。最後まで失格とならなかった１人の優勝となります！（JJF2020Web サイトより）

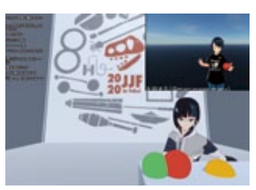
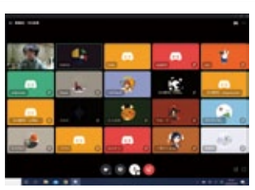
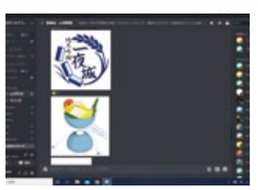
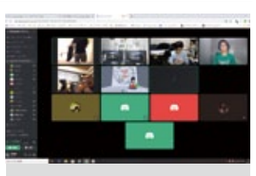


ワークショップ

有志とゲストによるワークショップを開催しました。今年はオンラインでの配信を行い、各会場や自宅など、どこにいても受講することができました

	講座名	日時	場所	講師名
ゲストWS	Neat Style	9/20（日）17:30-18:30	大阪会場・Youtube live	KOMEI
ゲストWS	ポイ WS for All Level	9/21（月）16:00-16:30	東京会場・Youtube live	Yuta
WS	依頼向けシガーボックス入門	9/21（月）11:00-11:30	沖縄会場・YoutubeLive	hanehituji
WS	後方空間の活用	9/21（月）11:30-12:00	福井会場（配信なし）	Leukocyte

	講座名	日時	場所	講師名	ファシリテーター
ゲストWS	アイソレーションの時間です！	9/20（日）15:00-16:00	Youtube live	おこたんぺ	
WS	3bパズルWS	9/21（月）14:00-14:30	Discord	かいん	
座談会	イラスト ＋ ジャグリング ＝	9/20（日）16:00-17:00	Discord	ふいきっく ゆうひたいち やごしさき	みっつん
座談会	“過去のJJF これからのJJF”	9/2（月）10:00-11:00	Discord	ー	吉永裕紀
座談会	会社でジャグリング同好会を作るには	9/21（月）11:00-12:00	Discord	吉永裕紀 Bino ちきぽ	
座談会	Vtuber座談会	9/20（日）15:00-16:00	Discord	三珠さくまる 丸投まる 衛星ライト	吉永裕紀
座談会	全国からJJFの会場を探そう！	9/21（月）16:00-16:30	Discord	ー	吉永裕紀
座談会	サイトスワップシンポジウム	9/21（月）17:00-18:00	Discord	西野順二	

30秒コンテスト

開催日時

ジュニア部門：9 月 20 日 14:00 ～ 15:00
※対象：ジャグリング歴 2 年以下の方

フリー部門：9 月 21 日 12:00 ～ 14:00
※対象：誰でも

制限時間 30 秒で「すごいジャグリング」を披露した人が優勝するイベントです。各オフライン会場で開催され、オンラインによる審査を行い、各会場の 1 位～ 3 位と、全体の 1 位を決定しました。

ジュニア部門　全国 1 位　たける（宮城）

会場別	1 位	2 位
北海道	ヤマザキ	なかやま
宮城	たける	
東京	との	
愛知	さんずい	ビッグ高木
大阪	白井	

フリー部門　全国 1 位　ズメ（北海道）

会場別	1 位	2 位	3 位
北海道	ズメ	せりかわ	かじーた
東京	みー	まっぱな	てりやき
愛知	ひろた	UNO	高柳
福井	ラクト		
大阪	あずさ	トバジロー	
福岡	黒珈琲	うどんこ	
沖縄	完		

エンデュランス

誰が一番長く技を続けられるかを競います。各オフライン会場とオンライン会場（Discord）の同時開催をしました。

開催日時　9 月 20 日　13:00 ～ 14:00

種目名	総合 1 位
2 フラワースティック アイドリングシャワー	ムットン（discord）
フィギュアエイトソー	UNO（愛知）
3 シガーボックスレインボーループ	hanehituji（沖縄）
inline3	クラタクミ（discord）
3 リングパンケーキ	かじーた（北海道）
5 ボールカスケード	なっとう（大阪）
3 クラブミルズメス	みやた（愛知）
スティックグラインド（固定軸）	がっさん（愛知）
3 ハットパンケーキ	伊トさん（愛知）

※（）内は会場名

ジャグリングイラスト特集

近年、自作道具やアクセサリーの他にも
ジャグリングに関する作品が増えてきました。

最近では、ジャグリングやジャグラーをイラスト化する方が増えてきています。JJF2020 オンライン WS「イラスト＋ジャグリング＝」では、ジャグラーでありながらイラストレーターとしても活躍する講師の方々に、イラストとジャグリングとの関係性やグッズ化について講義をしていただきました。
今回、本誌では講師をされた３名の方にご協力いただき、ジャグリングに関する作品を紹介します。素敵な作品をぜひご覧ください。

（SWJ 編集部）

ふいきっく 氏

JJF2020デザインのラフ画とTシャツに起用されたデザインをご紹介します。

作品

JJF2020デザイン ラフ案

JJF2020のデザインのお話をいただいたときに、デザインをいくつか提案しました。そのラフの案をお見せしながら今回のJJFデザインについてお話させていただきました。開催地である福井の特色を違和感なく組み込みたい、できるだけ多くの道具を描きたいという気持ちから今回のデザインになりました。

作品

JJF2020デザイン

JJF2020が福井県で開催されるということをお聞きして、福井県立恐竜博物館の恐竜の化石とジャグリング道具をモチーフにデザインを考えさせていただきました。JJF2020の理念である「生涯ジャグリング」と繋がったのは偶然か必然か。皆様の道具が化石になるくらい末永く、生涯を通してジャグリングに関わっていかれることを願っています。

編集部注釈　2020年のJJFが『JJF2020 in Fukui』として開催準備を進めていた段階から、Tシャツデザインを担当していただいていました。2020年のJJFはオンライン＋オフライン開催となり、TシャツのJJF当日の会場販売は実施されず、インターネットショップのBASEにて2020年11月8日～12月20日（日）に販売されました。

ゆうひたいち 氏

オンラインWSで披露された作品をご紹介します。

作品

ポイスピナーの女の子

ポイスピナーの女の子を描きました。背中に背負ったロボット“コスモ君”と、合わせて４つのポイを使ったパフォーマンスができます。

作品　**近所のカフェの看板姉妹**

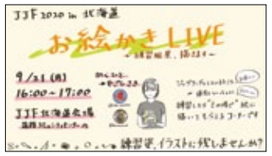
パンケーキが売りの老舗カフェで働く、リングジャグラーの姉妹を描きました。二人の制服には、リングをモチーフにしたデザインをいくつか入れたので、ぜひ服にも注目してください！

作品　**Trick? or Drop?**

ハロウィンの時期に作成したイラストです。ドロップが大好きな悪魔の女の子とジャグリング道具たちが仮装をして楽しんでいる様子を描きました。

やごしさき 氏

北海道会場で開催されたイベント「お絵かきLIVE」でのイラストや、普段制作された作品をご紹介します。



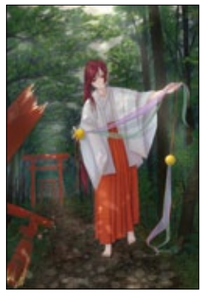
お絵かきLIVE

沖縄代表のもの「予行練習」ほか無題

当日は描いている途中で向きが180度変わってしまったり、気付かれ逃げられたりしたので思うようにかけず大変でしたが、楽しかったです！

作品　**contact**

綺麗な指を見て心が動かされたので描きました



作品　**神事**

座談会メンバーでの個人企画中にうまれた子です。技法的にも挑戦だらけでした。

新型コロナウイルス感染症対策について

日本ジャグリング協会は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、その拡大防止のため、ジャグリングイベントを開催するに当たっての基準や感染拡大予防のための留意点をまとめたガイドラインを設けました。JJF2020 が終了し、ジャグリングイベント全体に応用できる内容に改定いたしましたので、ぜひご活用ください。(2020 年 11 月 20 日) (JJF2019 公式サイトより引用)

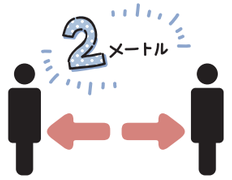
JJF2020 開催中の注意 9点 守ろう!

1. ジャグリングの内容に配慮し感染のリスクとなる技は避けること

2. マスクやフェイスシールドを装着すること

3. 手洗いを十分に行うこと

4. 参加者同士の間隔を開けること



距離はできるだけ2mを目安に最低1m

5. 大声を出さないこと

6. タオルを共有しないこと

7. イベント外でも良識ある行動をすること

8. 顔を触らないこと

9. 参加前後にジャグリング道具の消毒、清掃を行うこと

詳細は最新のガイドラインをお読みください

新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン
https://www.juggling.jp/jjf/2020/jp/covid19

感染対策

担当理事：西野順二

感染対策・救護班

メイン担当：まさやん　サブ担当：じゅぐる

JJF2020 新型コロナウイルス感染症 対策資料ダウンロードページ
https://www.juggling.jp/jjf/2020/jp/covid19

JJF2020 申し込み前の注意 9点 守ろう!

1. 以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせること
   - ☑ 体調がよくない場合
   - ☑ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
   - ☑ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

2. マスクを持参すること（基本的にマスクを着用すること）

3. こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること

4. 他の参加者、開催者スタッフ等との距離を確保すること。（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）

距離はできるだけ2mを目安に最低1m

5. イベント中に大きな声で会話、応援等をしないこと

6. 汗をぬぐうための清潔なティッシュ、タオルなどを持参すること

7. 感染防止のために開催者が決めたその他の措置を遵守し、開催者の指示に従うこと

8. イベント終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、開催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること

9. イベント参加前も節度ある行動を心掛けること

詳細は最新のガイドラインをお読みください

新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン
https://www.juggling.jp/jjf/2020/jp/covid19

Arttu Lahtinen

ー アルットゥ・ラハティネン ー

Photo by Florence Huet

ジャグリングを専門とするフィンランド出身のサーカスアーティスト。フィンランドのタンペレでジャグリングと出会ったのち、地元のユースサーカスSorin Sirkusに入る。当時ジェイ・ギリガンがジャグリングのヘッドコーチを務めていたUniversity of Dance and Circus（DOCH、現在はSKH）でサーカスを学ぶため、ストックホルムに移住。2018年に同校を卒業。さまざまなボディロールを含む独自のリングジャグリングで知られる。ジャグリングでは、柔らかく、角のない、静かな動きを模索することが好き。

（JJF2020Webサイトより引用）

ＪＪＦがオンライン開催となって、予定の大きな変更を余儀なくされた中で、急遽ビデオ提供とインタビューを快く引き受けてくれたアルットゥ。彼のリングジャグリングのビデオはＹｏｕＴｕｂｅなどを通して日本でも人気があり、そのハイレベル、かつ美しい動きに魅了されてきたジャグラーは数多い。インタビューはオンラインで、和やかに行われた。その様子を紙上で再現。

ジャグリングとはどのように出会ったのでしょうか。

２００７年頃、まだ小さかったときに、学校でディアボロが流行ったんですよね。休み時間にみんなでディアボロをしていたんですよ。それである時、ディアボロの他にボールを持ってきた人がいて。その人のジャグリングを見たのが、ボールジャグリングとの出会いですね。

その後今のメイン道具であるリングを始めたのはどのようなきっかけですか？

初めの頃はボール、クラブをメインでやっていました。リングも試してみてはいたんですが、しっくり来なくて。別のリングを試そうかな、と思って32㎝のスタンダードサイズを注文したんですよ。でも間違って40㎝のリングが送られてきちゃって。がっかりしましたね。でもとりあえず返品しないで試してみようと思って、ジャグリングしてみました。

そうしたら、思いがけず、大きい方がしっくりきたんですよ、それが始まりですね。

注文通りのリングが届いていたら、リングにはハマっていなかったかもしれないですね。

そうかも。

ジャグリングを仕事にしようと思ったのはいつからですか？

２０１３、４年ごろかな。その頃は、学校に行って、放課後にジャグリングをするぐらいしか活動をしていなかったんですよね。そんな中、自分が本当にやりたいことはなんだろう、と考えたんですが。結局、やりたいのはジャグリングだな、と思って。それでサーカス学校に入ろうと思い立って、ＤＯＣＨ（スウェーデンにあるサーカス学校、現ＳＫＨ）の試験を受けました。

その決定に対して、周りの反応はどうでしたか。

とてもよかったですよ。みんな「いいね、やりなよ」と背中を押してくれました。

ＤＯＣＨに入る前、故郷フィンランドのジャグリング事情はどのようでしたか？

ジャグラーの数はそれほど多くなかったですよね。まぁ、特に日本に比べたら……。今となっては、フェスティバルもそんなにないし。「ＦＤＣ（フィニッシュ・ディアボロ・コンベンション）」と「５３１フェスティバル」なんかがあったけど、ＦＤＣも終わって、５３１も、もう2年前ぐらい前に終わってしまいましたし。もともと参加者も最大１００人ぐらいで、小さかったし。

僕個人は、Aleksi Niittyvuopio（アレクシ・ニーッテュヴオピオ）やOnni Toivonen（オンニ・トイヴォネン）といったジャグラーたちと同じユースサーカス（青少年のためのサーカス施設）で練習をしていました。みんなで一緒に、毎日練習していました。

今はどのような場所で練習していますか？

住んでいる家の隣に、誰もいない空っぽの学校があって、その附設の体育館で練習していますよ。引っ越してきた時に、ここが空いてるよ、って大家さんが教えてくれたんです。

フィンランドからスウェーデンに移住したのはいつですか？

一番初めは、サーカス学校に入った２０１５年ですね。２０１８年に学校を卒業したあとフィンランドに帰って、一年間ヘルシンキで市民奉仕活動としてユースサーカスでジャグリングを教えていました。（註：フィンランドでは兵役義務を辞退する場合、市民奉仕活動でそれに替えることができる）

去年、またスウェーデンに帰ってきました。

フィンランドの人口は決して多くはない（註：約５５０万人）ですが、有名なジャグラーた

ち、ヴィッレ・ヴァロ（Ville Walo）、マクシム・コマロ（Maksim Komaro）、サカリ・マンニスト（Sakari Männistö）など、数え切れないほど名前が上がりますよね。なぜこんなにも多くの才能のあるジャグラーを輩出しているんでしょうね。

練習場所は充実していますけどね。ユースサーカスだって、練習環境として、とても優れています。少なくとも僕の場合はそうでした。学校が4時までには終わって、すぐにユースサーカスに行って、夜9時ぐらいまで練習をしてから家に帰っていました（註：フィンランドは、夏であれば夜9時でも明るい）。

コロナウイルスの影響について。ストックホルムでの暮らし（註：インタビューは2020年9月中旬）はどうですか。

概ね通常に戻っています。ショーの類はまだ復活していなくて、集会の人数も50人以下に制限されていて、人が集まることは難しいですが、街にそれほど変化はないです。店も開いているし。

ロックダウンの最中、練習することはできましたか。

2、3ヶ月は練習場所がなくて、家で練習していました。あとは、ジャグリング以外のことで言えば焼き菓子作りにハマっていましたね。サワードウブレッドとか、ケーキとかを焼いていました。ふふふ。

部屋でしか練習ができなかったのは、今フープに取り組んでいることと関係しているんでしょうか？（註：2020年7月に「yucca - Arttu Lahtinen」というフープジャグリングのビデオを発表）

……そうですね。フープ自体は前から研究していましたが。規制が始まって、しばらく今まで通りのリングの練習はできなくなってしまって。それでも部屋にはフープを転がせるぐらいのスペースがあったので。この二つは共通点が多い上に、リングではできないようなことも、フープならできる場合があるので、少しずつ実験を始めました。「転がす」ということもそうですよね。

コロナウイルスで多かれ少なかれ規制がかかる中、仕事はありましたか？

いえ、夏の時期は何もなくて。家で練習するか、他のプロジェクトを進めるかでした。

今年の1月には、「シルク・ドゥ・ドゥマン」（註：毎年パリで開かれるサーカスイベント）に出ていました。その経験について聞かせてください。

貴重な機会でした。ステージも大きい、観客も多い、ほとんどの人がサーカス関係、しかもアートサーカス関係の人たち。ヨーロッパでもとりわけ大きいフェスティバルで、多くの人が見る影響力のあるイベントです。ワクワクしました。

反応はどうでしたか。

よかったですね。自分の演技の出来にも満足しています。出演する前は、こんなに大きいステージでやるのは初めてだし観客も多いし、「失敗は許されないな」と、緊張感に耐えられるか不安でしたが、上手くいきました。

もう少し具体的なジャグリングの話を。今使っているリングは、PMリングですよね。そのリングについて、あるいは「カスタムされた道具」全般についての考えを教えてください。

カスタムメイドの道具は可能性を広げますよね。道具のサイズや重さを変えるだけでも。小さいリングでしかできないこともたくさんあります。手首までは通るリングがあったり。逆に大きければ、今度は体を通すことができたり。

今使っているPMリング（註：日本のジャグリング道具メーカー「PM Juggling」によるオーダーメイドのリング）は具体的に何がいいのでしょうか。

正直言って、全部かな（笑）。重さもちょうどいい。コントロールがしやすくて、ナンバーズをやっている時も、投げ出しは重いけど、一旦ジャグリングしだすとミスしないんですよ。コントロールしやすくて。このリングを使って4年ぐらいになりますが、ほとんど変わらず、道具自体もとても長持ちしています。別のリングに変える理由も特にないですね。

PMリングが届いた時、これがどれだけの手間をかけて作られたものか、よく感じ取れました。今までのリングは、買った時も「ああ、これからこれを使うんだな」ぐらいにしか思わなかったけど、PMリングを持った時は、これは、「道具」だな、と感じましたね。大きさ、重さも希望通り。より自分のもの、大事なものだ、という感じがしました。新しい道具を手にする瞬間というのは本当にいいですよね。

僕も道具を自作することについて最近考えます。完璧なものは作れなくても、自分が選択を重ねた結果がこの形に結実している、という満足感があります。ジャグラーは道具と過ごす時間が長い。それは道具を慈しむ時間でもあり、ツルッとした感じ、ガサガサした感じ、くっつく感じ、摩擦、それを楽しむ、これもジャグリングの魅力じゃないかと思う。

うん。言葉にはできないけど、いいな、と感じることってありますね。

たとえば音楽の世界なら、楽器は弾きやすいかどうかだけではなく、外見も大事にされる。ストラディバリウスみたいな古く伝統のある楽器も使われていたりする。でもジャグリングではあまり見ないですよね。100年モノのリングとか。ジャンルとして歴史が浅いということももちろんあるとは思いますが。

そうだね。

では、次は影響を受けたジャグラーについて。ペテル・ヴァットゥステン（Petter Wadsten）と、タカアキ（松村高朗）に特に影響を受けたということですね。ペテルは直接会う機会があったんでしょうか。

僕はフィンランド、ペテルはスウェーデンに住んでいたし、長らくビデオしか観たことはなかったですね。今では何度も会っていますが。でも、タカアキにはまだ会えていないですね……。日本にもいつか行きたい。

練習をする中で、何か特別に意識していることはありますか？

「何に時間を割くか」です。DOCHに行く前は、練習場所に着いてから思いつきであれこれジャグリングをしていました。でもあまり効果的ではなかった。今はもっと、この技を練習しよう、なぜならこの技を舞台でやりたいから、とか、ビデオに入れたいから、とか、はっきり意識します。

演技はどのように作りますか？

最初にどんなジャグリングの技を入れたいかを考えて、次にそれをどんなスタイルでやりたいか、あとはいくつの道具を使うか、などを考えます。DOCHの卒業演技を作った時は、「どのようなコンセプトを主題にするか」をまず考えました。入れたいと思う特定の技をまずはピックアップします。そして演技を作る過程で、全てを取り入れる方法を考える。それぞれがしっくり来るところを見つけていくんです。

音楽は後からつけたんですか？

そうですね。学校に音楽家がいて、演技のためのオリジナルの音を作ってくれました。演技を作りつつ、音楽家とも連携して、まずはこういう風にしてほしい、と話します。そこで試作品が送られてきて、演技をしてみて、もう一度映像などを送って、最終的に演技が出来上がったら、また映像を送って、改めて調整して、という感じですね。

人生の中で初めてやったジャグリングの演技は何でしょうか。

たぶん、ユースサーカスでやった演技ですね。のちにDOCHでも同じクラスになる友達のアレクシと、デュオの演技をしました。

技を作るときはどのようなことを考えますか？

同系統に収めるようにします。たとえば僕は、長年さまざまなバターンのボディロールを試してきました。それが僕のボキャブラリーなので、技を作る時は必ずボディロールを入れるようにします。ひとつのコンセプトを掘り下げる、ということですね。

ボディロールをするようになったきっかけは？

間違えて大きいリングが届いてしまった時ですね。その大きいリングで、首の後ろのボディロールをやっている人を見たんですよ。それで、その技を練習し始めて。あとはペテル・ヴァットゥステンが肩をロールさせるバッククロスとか、前からの肩ロールをやっているのを見て、僕も色々やってみたいなと思ったんです。

技を見せるときに意識していることはありますか？

落ち着いてやることでしょうか。その場、その瞬間に自分が存在することを意識して、自分にはこれができるんだ、と考える。これだけ練習をしてきたから、と。以前は、ステージに上がる前、どんな順番で、何をするんだっけ、と考えていたんですが。今では、音楽を聴きながらちょっと動いて全然別のことを考えて、パフォーマンスをする段階になったらやるだけ、という感じです。練習に割いてきた時間を信じる。

アルットゥのジャグリングに特徴的なのが、リラックスしていて落ち着いていることだと思います。それも意識していることですか。

今となっては自然にそうなりますね。普通にジャグリングをしていても、見え方に必ず特徴が出ます。ひとつ心掛けているのは、力を抜くこと。ただ単に「技ができる」というだけじゃなくて、全ての瞬間を自分でコントロールできるように。リングの動きを把握して、身体の状態も把握するんです。

ジャグリングは人の性格を表すところがありますよね。どういう暮らし方をしているかとか、態度とか。アルットゥの人の良さと落ち着きが、ジャグリングにも表れていると思います。

ありがとう（笑）。自分を伝えるジャグリングですね。

5リングを使ったボディロールの技はありますか？

マルチプレックスのパターンで、いくつかアイデアはあります。でも習得には至ってなくて。ぜひ時間ができたら、取り組みたいと思っている技はあります。

最後に、日本のジャグラーにメッセージはありますか。

僕が思う「ジャグリングで面白いところ」の大きな部分を占めているのが日本のジャグリングです。Instagramを見ていても、日本のジャグリングはいつでも圧倒的。レベルが高くて刺激をたくさんもらっていますよ。

ありがとうございました。

（インタビュー・構成：青木直哉）

https://www.arttulahtinen.com/

★ じゃぐりんどる ★

MAYU

「MAYUさんのことがもっと知りたい！」をテーマに、ジャグリングやそれ以外のことについて質問を集めました！

オリコンウィークリーチャートで５位を筆頭に数々のシングルランキングで10位以内を獲得しているChaos Underground Zealot（Chu-Z）のメンバー。TikTokではASIANZ Dancersとしてフォロワー約82万人を達成、ジャグリンドル個人のTikTokでも約17万人のフォロワーを待つアイドル界最強のインフルエンサーの一人。アイドル×ジャグリング＝ジャグリンドルの造語を生み出し、オンリーワンの存在に最後の決めポーズはジャグリング界のみならず現在はTikTokerの間でも話題になっている。（JJF2020Webサイトより引用）

http://www.chu-z.com

ジャグリング以外のこと

1.Chu-Zでは何担当？
担当カラーはシルバーです！！
担当は...バラエティ(?)

2.Chu-ZってMAYUさんから見てどんなグループ？
家族でもありライバルでもある
だいすきな仲間たちです✨

3.Chu-Zの楽曲で一番好きな曲は？
自分が初めてChu-Zを見たときに背中を押してもらった曲
『GIRLS ON THE RUN』です！

4.好きな食べ物は何？
干し芋🍠と プリン🍮

5.好きな色とその理由を教えて！
ピンク💗
『理由はないけどただ好きです。笑』

6.犬派？猫派？それ以外の動物派？
圧倒的に犬！
鼻がベチャってなってるチワワ🐶

7.ヘアカラーが素敵です！次にしてみたいカラーはある？
ありがとうございます💗
今はこのままピンクがいいですね

8.私服がかわいい！お気に入りのブランドは？
ブランドにこだわり全くなくて
いつも直感で選んでます！

9.ジャグリングと釣り以外にハマっているものはある？
きざみのり職人
(きざみのりで絵を描く)

10.京都出身って聞いたんだけど、おすすめの食べ物とか場所を教えてほしい！
地元の小学校は水道から
お茶が出るんですけど
そのほうじ茶美味しかったです(笑)

11.MARVELが好きって聞いたんだけど、一番好きなキャラクターは？あとその理由を教えて！
キャプテンアメリカ🇺🇸
ただただかっこいい(笑)
キャプテンアメリカに
守ってもらいたい人生でした

12.毎日している体のケアってある？
毎日45分お風呂に使ってます

13.釣りのアカウントフォローしてます！いつから釣りを始めたの？きっかけは？
YouTubeをやりたいと思って
社長に相談したところ
YouTubeやるなら釣りでしょ！っていうところからまずは始まりました

14.最近釣りで何を釣った？
サワラ🐟

15.今までで釣った中で一番の大物は？
シーバスの67センチで
まだまだ道は長いです…

16.釣り道具のメーカーはどこを使ってる？
HIDE UPさんとVARIVASさん
DUOさんです

17.一級船舶免許おめでとう！今後はどこに釣りに行ってみたい？
全国飛び回っていずれ海外🌎

ジャグリングのこと

18.初めてジャグリングを見たのはいつ、どこで？
３年前かな？
PaniCrewさんのライブです

19.ジャグリングはいつから始めたの？
約３年前くらいです

20.ジャグリングを始めたきっかけは？
PaniCrewさんのライブをみて
これやりたい！って思ったのが
きっかけです

21.ジャグリングの先生（師匠）は誰？
ほぼ独学です

22.憧れのジャグラーや目標にしている人はいる？
Taylor Glenn

23.普段どんな練習をしているの？
Instagramに上がってくる動画をみて真似しながらボール触ってます

24.ボールとけん玉の種類を教えて！
けん玉はドンキホーテで買ったやつ（笑）ボールは基本ロシアン使ってます

25.これまでボールとけん玉以外のジャグリングはしたことはある？やってみての感想は？
交流会に参加させていただいて
色んなのを体験させてもらいました！
やっぱり出来ると嬉しいし
楽しいですね！！

26.これからボールとけん玉以外にやってみたい道具は？
ディアボロとヨーヨーは
ちょっと興味あります！笑

27.ジャグリンドルって言葉が素敵！自分で考えたの？名付け親がいるの？
自分で考えました！

28.ジャグリンドルって一人だと心細くない？仲間を増やしてグループでジャグリンドルをやりたいと思うことはある？
オンリーワンだから意味があるし
そこに価値が出ると思ってるので
ジャグリンドルは世界で
1人がいいです

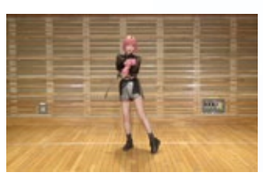
29.ゲストステージの話が来た時にどんな風に思った？
ただただ嬉しかったし
びっくりしました！😱

30.ゲストステージ動画のこだわりポイントは？
収録でもリアルを届けるために１発撮り

31.ゲストステージのダンスかっこよかった！ダンスはいつから始めたの？
中学２年生

32.ジャグリンドルでこんなことしたいって目標はある？
いつかジャグリンドル主催の
イベントやりたいですね！

33.ジャグラー（読者）へ向けて最後に一言ください！
いつもありがとうございます。
何事もそうだけど
好きで楽しいって思えることが
1番大切だなって思ってます。
『ジャグリング』だいすきです👉



2001年、友人の影響でジャグリングを始める。早い段階から頭角を現しオリジナリティのある独特のジャグリングスタイルで日本、アメリカの数多くのコンテストに出場。2005年にはジャグリング世界大会Jr部門で2位に輝く。その後独自にポッピンダンスを学び、2008年にはダンスとジャグリングを融合させた全く新しいパフォーマンススタイル"Daggle"を確立、ジャグリング全国大会で優勝し、日本チャンピオンとなる。それをきっかけに海外フェスティバルにもゲストとして数多く出演。（JJF2020Webサイトより引用）

KOMEI

おこたんぺ。

クリスタルボールを自由自在に操るコンタクトジャグリングの名手。シルク・ド・ソレイユの登録パフォーマー。水晶玉を操るその無重力なパフォーマンス・スタイルは、マジカルでミステリアスな空気を漂わす摩訶不思議なエンターテイメント。その他にも固定点を多用した視覚的に不思議な道具や、日常品を使ったコミカルな演目、炎を使ったファイヤーショーも行なっている。とても不思議でどこか温かみのあるショーは大人から子供まで多くの観客を魅了している。（JJF2020Webサイトより引用）

米屋（以下、米）　まずお二人のゲストショーのビデオの内容についてお聞きしたいと思います。今回のビデオはＪＪＦ参加者に向けた内容にされましたか？

ＫＯＭＥＩ（以下、Ｋ）　俺は前にソロ公演でやった内容をぎゅっとした感じですね。本当は45分ぐらいのショーだったのを、再構成した内容にしました。

おこたんぺ。（以下、お）　俺はマニピュレーションだなと思って、バトンは意外と面白かったからあれにして、あとはフープとコンタクトはアイソレーションをきれいに見せるようにして、あとはキューピーちゃんですね。ロシアンキューピー（砂入りのキューピーちゃん、自作です。）ですね、あれは。

米　ここから本題なのですが、二人のジャグリング映像の作り方について、聞いていくことにします。もともとお２人ともジャグリングの映像はこだわって作ってると思いますけど。

お　ＫＯＭＥＩこだわってるでしょ？

Ｋ　俺、別にこだわってないっすよ。こだわってないというかそんなに、ごまかそう、いろいろごまかそうとした結果あんな感じになってるっていう感じなんで。いいカメラとか持ってないし、画質があんまり良くないしね。自分で全部セルフで撮ってるから、アングルとかも難しいじゃないですか。だから適当に撮ったやつを、何とかそれっぽく見えるようにごまかしたいという気持ちだけでやってる感じはあります。今回のビデオはｉＰｈｏｎｅ２台で２回、２周撮影しましたよ。だから４カメで撮ってる風ですけど。練習する時間もなかったから、めちゃくちゃ失敗しまくって、成功した部分を何とか四つのうちのどれか撮れてるだろうみたいなのをつなぎ合わせて、何とかノードロップのショーを編集で何とかやったって感じです。ライブだったら本当に悲惨なことになってたっていう感じで。

お　ＫＯＭＥＩは編集のセンスだよね、多分ね。

Ｋ　編集って言っても、専門的なことは何も分かんないんで、編集も全部ｉＰｈｏｎｅでやってるんで。ごまかす技術だけはちょっと上がった気がしますけど。

米　プロモーションビデオとかＹｏｕＴｕｂｅに上げてる映像を見ていると、でも昔からＫＯＭＥＩさんって、きれいに映像作品でまとまってるなって印象を受けます。

Ｋ　思い描いたやつがちゃんと思ってるとおりにできてるかは分かんないですけど、映像でやりたい編集の仕方とかはあったりはしますけどね。ちゃんとしたプロモーションビデオみたいなやつは友達に撮ってもらって、友達の後ろで指示出して、こうやってくれ、ああやってくれっていう風に。だから自分でｉＰｈｏｎｅで撮ってるやつはちょっとだいぶクオリティー落ちちゃうなっていう感じではあるんですけど。

米　あらかじめ見せたいものがあって、それに合わせて映像を撮っていくって感じでしょうか？

Ｋ　でも適当ですよ。とにかく見やすく映ってればいいやぐらいの感じで、あとは編集で何とかなるだろうみたいな。今回のゲストショーは特にそんな感じで、取りあえず４方向から撮って、後でつなげれば何とかなるでしょうみたいな感じでした。編集のやりかたについてですが、音楽に映像を合わせようみたいなのは結構考えてます。俺は、電気グルーヴのミュージックビデオとか結構参考にしてるところあるんですけど。電気グルーヴって結構ひどいんですよ、ミュージックビデオの映像が。ホームビデオで撮ったようなやつとか、どこの国か分かんない、汚い映像の素材とかを電気グルーヴの曲に何の関係もない映像を音楽に合わせて編集してるみたいなやつが結構あって、そういうのが面白いなというのは、それはちょっとある気がします。どうでもいい画像でも音楽に合ってればいいというのと、あとは自分の見せたい技とかがちゃんと映ってれば、映り方とかは割と編集で何とでもなるんだろうみたいな感覚ではありますね。

米　おこたんぺ。さんの映像でこだわってるところは？

お　映像に関しては、使用用途で違うと思うな。例えば、ＪＪＦみたいな大会に出すってなると、別に映像に力は入れなくて、やることに力が注がれるわけですよね。それとは別に自分のプロモーションビデオってなった場合は、やっぱりどういうコマを撮りたいかがまずイメージであって、それを編集していこうとか、より細かくイメージできてると簡単に仕上げられるし、かつ、音楽との音ハメ、映像も音ハメが大事だから、それの同時進行かな。以前、レストランで俺のＰＶを作ったんだけど。あれはこういうのがいいなというイメージが最初にあって、曲も何となくいいのが見つかったから、それを当てはめて作りました。映像ってルーティン作りと結構似たところがあって。技だけを見せようとしたらどうしても単調になるんですよね。それだと３分以上になると見れないっていうか、映像を見せるというよりは技を見せてるっていうか、そこが大きな違いだと思うんですよ。映像のイメージができてる人っていうのは、やっぱりルーティンとかパフォーマンスの組み立てもイメージできてる人が結構多いと思う。飽きさせない構成力や流れ。Ｙｕｔａの映像もＰＶみたいになってたけど、ここは１回落として、次盛り上げてっていう一連の流れ、最後までの流れ作りもやっぱりうまい気はするね。本当に。

Ｋ　あれすごかったな。

お　Ｙｕｔａはチームのルーティンとか振り付けも全部作れるし、それはやっぱりイメージができてるからだろうし。

Ｋ　構成力ですよね。

お　構成力だね。あと自分が何見てきたかとかがもろに出るわけじゃない。映画いっぱい観た人とか、それこそミュージシャンのＰＶいっぱい見てきたとか、そこでチョイスするのがやっぱりセンスだと思うし。俺はこれが好きっていうのを自分の作品で出す、出て来るのがその人のセンスだと思うけどね。

Ｋ　確かにそうっすね。

米　おこたんぺ。さんは今までいっぱい観た映像作品とかありますか？

お　ＰＶも見てたし、映画もやっぱ観てたからね。ずっと映画漬けだった、若い頃何もせずに映画漬けだったのは、やっぱり今でも良かったなって思うけどね。そのときはあらゆるものを観てたよね。でも新しいのが多かったかな。タランティーノ監督の映画は好きだね。

米　私もタランティーノ監督の作品は好きですね。あの人の曲の使い方がすごい好きで、いいセンスの曲を映像にはめていくのが見ていてすっごい楽しいです。

お　（タランティーノ監督の）Ｂ級感もいいし。電気グルーヴも面白いよね。

Ｋ　面白いっすね。

お　ここまで動画が増えた時代になると、本当にみんなありふれたものは見なくなるから、本当にセンスとアイデアだと思う。ジャグリングを映像で見せるのは難しいけどね。そのジャグラーが何を見せたいかによるけど。

Ｋ　難しいっすよ、ジャグリングの動画。

お　あれすごい良かったじゃん、Co-vid　3b - Collaborative Juggling Video - 3 balls 。

K　あれめちゃくちゃ良かったのに、あんだけしか再生されないんだっていうの結構ショックですけどね。あれで駄目なんだったら、もうジャグリング駄目じゃんみたいなところありますけどね。

お　あれやばかったね。

K　あれはやばかった。あのメンツとクオリティーとあの内容でっていう。

お　あれ本当にセンスいいよね、あの作った人は。

K　あれはすごかった。

お　だからルーティン作りでも思うけど、なんでその曲を使うのかっていう、全然パフォーマンスとマッチしてない子が多かったりとか。結構客観的にまだ見れない部分とかが多いなっていう。歌もの使うと、歌の威力が強過ぎてルーティンが入ってこないとか。周りの人のまねしないのが一番いいんじゃないですか。

K　多分ジャグリングの映像を参考にして、ジャグリングのルーティンとか選曲を参考にしてってやってるから、そうなるのかなっていうのはありますね。

お　そうかもしんないね。

K　やっぱ多分外部からの影響になりますよね。映画もそうだし、映像に関してはプロが作った映像のものを参考に、参考にというかその影響を受けてるかどうかというのは大きいかもしれないですね。構成に関してもそうじゃないですか、多分。ジャグリングの

構成の仕方だけ大学の先輩のものだけ参考にしてたら同じようなのになっちゃうし、全然関係ない別の、お芝居だったりとかの影響受けてたりすると、また違ったりするっていうことですよね。

お　でもパフォーマンスってもろビジュアルのものだけど、半分はやっぱり音楽だよね。

K　音楽どうしました？　俺、結構今回どうしようって。著作権フリーでっていうのがやっぱ大前提だったから。

お　バトンのやつだけはフリー音源のサイトから買いました。結構するんですね。Ｙｕｔａに聞いたら、ＹｏｕＴｕｂｅライブラリーだったら、音源フリーだよって言われたので、ＹｏｕＴｕｂｅライブラリーで探して、それっぽいので作りました。

K　俺は、著作権フリーのをアップロードしてるサイトがあって、それの無料分みたいな、これは無料ですみたいなやつを適当に落として。映像は先に無音で撮っておいて、後で編集で何とかしました。

お　マジで?そんなことしたんだ。

K　無音で映像撮って、取りあえず映像だけ何とかつなげて、失敗はしないように全部編集してから、音楽を後で付けました。

お　それよく音はまったね。

K　なんかはまりましたね。でも、クリップビデオみたいな技のビデオとか出すときも、別に音楽のこと考えてないんで、後で曲決めるから。でもやっぱり、ちゃんと全体的にはまるわけはないんですけど、ここっていうポイントさえ合ってれば、合ってるように見えるんですよね。今回、ダグルとか曲に合わせた振り付けとかやってないから、なんかそれっぽくできたなって感じではあるんですけど。

お　ダグル入ったら無理だよね。

K　だから何曲か友達が作った曲があって、それとフリーの音源と、あと著作権切れの映画の音声を曲のつなぎで使ってみたいな感じで、何とかだましだましやりましたね。

米　お二人とも、ビデオ制作の際は絵コンテみたいなのは作りますか？

お　カメラマン入れるときとかは伝えたりするときもあるけど。自分で作っちゃうときは脳内で。複雑になってったら描き出すかもしんないかなと。

K　今回はショーの構成はできてる状態だったんで、とにかくそれを何とか落としてないふうに、何とかスタジオ借りてる時間内に撮り切らないといけないっていうところだけ。

お　今回に関しては、ＫＯＭＥＩは絵コンテも何もないもんね。

K　ないっす。とにかく映像収めて、後で全部編集も、だから映像も音楽も後で何とかしようっていう感じだったんで。ＰＶ作ったときは、いっぱい着替えるやつ。コマ撮りで服が変わっていくやつは、あれはだいぶもともと曲も決まってて、カウントこれで、服を何種類着替えて、こういう順番でっていうのはかなり緻密にはやりましたね。今回はもう全部後で、撮ってから後で何とかしようっていう感じでした。Ｙｕｔａさんの話も聞きたいっすけどね。

お　Ｙｕｔａ、すげえ大変そうだったよ、あれ。

K　だって、すごいもんな。本当にチームで動かないと、どんだけの人と手間が掛かってるんだろうっていう。ギャラ全部経費で消えたんじゃないかっていう。というか、足りたんだろうかっていうか。

お　Ｙｕｔａらしい。

米　これからはジャグリングも映像で見せるジャグリングというのは増えてくると思うのですが、お二人はどのようにお考えですか？

K　どうだろう。

お　そこもさじ加減だよね。編集に凝ると、ジャグリングの意味もなくなってくるからさ。やっぱりジャグリングの技を見たいところあるから。そこのさじ加減が今度難しいよね。

K　結局やっぱり生で、ステージで観るのが絶対に一番なんで、流行りはしないだろうなと思ってます。映像には限界はあると思うんですよ。だからそこを超えるとしたら、ＶＲしかないかなっていうのは。ＶＲがどこまで安価で広まるか。３Ｄでライブ感ある立体で見れるっていうところまで行けば、変わるかもしれないと思うんですけど、やっぱり生でステージが絶対に一番いいとは思ってるんで。結局、言葉を使うエンターテイメントには絶対勝てないですよ。言葉を使うエンターテーメントか音楽。どうかな。映像は難しいっすね、ジャグリングは。

お　パフォーマンスだからね。

KOMEI

https://www.youtube.com/user/komeiaoki

K　そうっすね、やっぱ生でなんぼ。

お　これからジャグラーが映像出していくってなると、本当に長い映像が難しくなってきたと思う。本当にＴｉｋＴｏｋまでは短くなんないけど、インスタで1分ぐらいの映像にしないと、見られないだろうな。

K　それはありますね。というか、自分もＹｏｕＴｕｂｅでジャグリングの動画観なくなったんで、インスタでひと技、ちょっとした1分。1分あると結構長いなって思っちゃう。

お　1分でも長いってなるよね。ここまであふれてくると。

K　Ｔｗｉｔｔｅｒ、Ｉｎｓｔａｇｒａｍで流れてくる本当に10秒、20秒ぐらいのものじゃないと、なかなか見るのつらいみたいな感覚はあるんで。だから今回でも、すごいライブ感、特別な環境で、みんなが同時視聴する状態で映像を見るっていうの、それはちょっと良かったですけどね。ただ、それが普通になるかどうかっていうと、どうなんだろうっていう。このコロナの中での特別なことなのか。

お　やっぱ生だからね。特別期間だよね。

米　最後というか、ジャグラーの動画でもいいですし、映画とかでも、何かおすすめの映像作品とかあれば、教えてほしいです。

お　それこそCo-vid　3b - Collaborative Juggling Video - 3 ballsこそまさにみんなが最後まで見れるジャグリング作品じゃないかな。

K　参考になるかもしれないところで言うと、フィンガーサーカスっていうタットとかフィンガー系の団体がいるんですけど。インスタとＹｏｕＴｕｂｅだったかな。ＹｏｕＴｕｂｅは違ったかも。ジャグリングでやるのは難しいんですけど、なんていうんだろうな。画角、映り方とかがちっちゃい。それをこの画角でどう見せるかみたいな、それを基本全部編集なしの一発撮りでやるんですよ。それが見せる部分がちっちゃいけど、すごいうまく撮ってる。

お　いいかもね。

K　参考にというか、撮り方としては。なんとかジャグリングでも、こういう撮り方ができたら結構かっこ良く映るんじゃないかなとか思うんですけど。どうだろう。ジャグリング以外の周りの世界だったら、割とカメラワークかっこ良かったりするけど。

お　今、アクションカムもすごい画像いいし、手ぶれ補正もあるし、スタビライザーも今安くてちっちゃいから、撮ろうと思えばカメラマン1人とパフォーマー1人で、センスさえあればどんだけでもかっこいいのは撮れるんで。それはでも、いろんな映像を本当にいっぱい見て、いろんな音楽をいっぱい聞いて、いろんなパフォーマンスいっぱい見て、自分で取捨選択していけばいいんだと思うけどね。

K　とにかくいろんなものを見るっていうのは、本当になんでも。映画もそうだし、アニメとかもね。アニメのカメラワークとかも絶対参考になるし。

お　1回編集とかしたほうがいいよね。してない人って分かんないじゃん。０．０何秒を削るだけで全然印象が変わるとか、やっぱりやってないと分かんないし。あと1回何かをカメラマン目線で最初から最後まで見るというのは、結構面白いと思う。物語を見るんじゃなくて、ただカメラワークだけを見る、アングルだけを見るとかの見方をすると、結構開けると思うけど。そっちだけに集中して見るとか。やっぱ面白いには面白いなりの理由があるからね、絶対。

K　1回友達とＰＶ作ったときに、その友達は素人なんですけど、カメラ好きの素人で、カメラとかは趣味でやってる友達なんだけど、その友達の友達が本当にプロの映像の人で、俺がやってるイメージで編集してもらってる最中にそのプロの人が隣にいて、俺こうしたいみたいなこと言ったら、ちょっとした本当に、真っ黒いシーンは本当にこれぐらいの短い時間じゃないと事故だと、ミスだと思われるから、などのアドバイスをもらったことがあります。やっぱプロの目線でしか分からないところもあると思うから、なかなか難しいっすけどね。けど、ある程度のところまではいろいろ参考にして、まねしてやってみるのが。ただ、自分でやんないと分かんないっすもんね。

お　結構美的センスだよね。美的感覚っていうか。カメラ撮っても、画角をよく取れちゃう人っているじゃん。それって勉強すればできることなんだけど、勉強してもたどり着けない画角とかあって、勝手に黄金比になって撮っちゃう子とかっているわけじゃんね。でも勉強できることだからね。いろんなの見たほうが勉強になるなって。それでもダサかったら、もうそれがセンスだね。

K　それで言ったら、取りあえず電気グルーヴのプロモーションビデオというか、ミュージックビデオは見てほしいっすね。なんでもない本当にどうでもいい映像を、ただ音楽に合わせてるだけで、なんか面白いみたいな。あと、ジャグラーで言ったら、編集面白いなと思うのは、やっぱりウェス・ピデンとかかな。ウェスの編集も結構、全然関係ない映像が別画面で出てたりとか。トニー・ペッツォとかよく分かんない、海外の謎のクイズ番組の映像が途中ではさまれたりとか。背景が謎にレインボーだったりとかするからね、そういうなんだろうね。センスかあれは。センスでしかないんだけど。

お　映像だからね。もっと面白いめちゃくちゃなことやってもいいのかもしれないね、これからは。

K　とにかく遊んでみたらいいとは思います。

米　お二人ともありがとうございます。これからもお二人のパフォーマンスを楽しみにしています。

おこたんぺ。

https://www.okotanpe.com

Yuta

2005年 JJFチャンピオンシップ特別賞受賞、同年に公開したパフォーマンス Deepforest / Endangered Species は世界中のポイアーティストに影響を与え、近代ポイのパイオニアの一人として知られる。高いポイスキルはもちろん、音楽と一体となり舞う独特のスタイルで見る人を魅了する。2015年よりクリエィティブチーム「POI LAB（ポイラボ）」を主宰。パフォーマンス活動の他、技術指導・演出協力等も精力的に行っている。

（JJF2020Webサイトより引用）

K：iM（以下、K） 今日は日本のポイのこれまでについて振り返りながら色々と伺っていきたいと思います。まずは、Yutaさんがポイを始めたきっかけは何だったのでしょうか。

Yuta（以下、Y） ポイを始めたのは2003年6月27日です。

K： しっかり覚えているんですね。

Y： 大学生の時にワーキングホリデーで行っていたオーストラリアで初めてポイを触りました。俺の通っていた語学学校のフィリックス先生が、英語の授業でセカンドジョブの話をしたときに、「俺のセカンドジョブはファイアダンスだから、次のアクティビティのクラスでポイをやろうよ」みたいな話になって。なんだろうそれはっていうので参加したのが最初かなと思います。

K： 他にも生徒が一緒にいて、みんなで見に行ったみたいな感じでしょうか。

Y： アクティビティはポイだけじゃなくて、美術館を見に行くなど何個かある中で、たまたま自分はポイを選んで、たまたまポイがしっくりきたって感じです。

K： なるほど。それでポイにはまって練習をし始めたんでしょうか。

Y： そうです。語学学校が終わった後は旅に出るって決めていたので、そのときにポイがあったらいいなと思って、その先生のワークショップを受けてバタフライまで教えてもらいました。あとは、初めてマイポイを買ってそれからはまった感じですね。

K： 当時はどんな技があったんでしょうか。

Y： 小学生か中学生ぐらいの子どもたちが3ビートウィーブをやってたから教えてもらって、バタフライ、スレッド・ザ・ニードルなんかは先生に習いましたね。その後、3〜4カ月後にたまたま旅の途中で出会った人が、アイソレーションやってて。「なんだこれは」って、教えてもらおうと思ったら、そこでストールは教えてもらったんだけど。「ストールをできるようになったから、おまえはできるはずだ」みたいな感じで言われて。旅の途中で自分の影を見ながら練習してアイソレーションを導き出してって感じかな。

K： アイソレーションは教えてもらえなかったんですね（笑）。子供も遊びでやるくらいオーストラリアは当時から盛んだったんですね。

Y： 当時から多分盛んだったと思う。でもウィーブのターンは自分で考えて、みんなに見せたら、ワーって言うようなレベルだった。

K： その当時は日本でポイをやっている人っていたんですか。

Y： 調べたら代々木公園でやっている人がいて、そこで初めて火付盗賊（※プロフェッショナルファイアーパフォーマンスチーム火付盗賊（ひつけとうぞく）のこと）のNORIさんに会いましたね。あとは、かわいいテールポイを作っていたスイングのメグちゃんとかが火付盗賊と同じかそれよりも前の世代で2003年くらいかな。

K： ああ、いらっしゃいましたね！凄く久しぶりにお名前を聞きました。Yutaさんはもともとジャグリングは、やっていたんですか？

Y： やってないですね。オーストラリアから帰ってきて、大学の13号館の広場で練習してたんだけど、偶然@jug（※東京農工大学ジャグリングサークル@jug（アットジャグ）のこと）の人がポイを回してるのを見掛けて、「俺もポイやってるんだよ」って話をしたら「ポイはジャグリングなんだよ」って教えてもらって、確かそれでジャグリングサークルに入ったのかな。

K： 帰ってきてから一緒に練習しようってなったんですね。てっきり大学入学からジャグリングサークルに入っていたのかと思っていました。

Y： 日本でポイしてる人、知らないから、一緒にやろうってなって。でも、そこも農工大のサークルに外から来てる人も結構いて。（鈴木）拓矢とかMASAKI君とかファリウ君とか、カレー君がいたな。その辺がJJFとか大会で割と入賞して。

K： JJF2004年の頃でしょうか。今は謳歌さんに、ボンバングーさんですね。

Y： そのとき自分はJJFとか知らなかったから、みんなは盛り上がっていたけど、「俺は興味がないから練習したい」って言ってたんだよね。そしたら「Yutaさんのポイは誰も見たことがないことをやっているから、日本のジャグラーに見せてほしい」って言われたんだよね。その当時、ポイはあんまり大したものじゃないように見られていたらしくて。じゃあ、来年行こうかなって感じで2005年のJJFに参加しました。

K： それでチャンピオンシップに出ようと思ったんですね。JJFの演技を作るに当たって、参考にしてたものってあったのでしょうか。技とかは自分で考えてたんですか？

Y： そうですね。日々、新しい理論が生まれて楽しかったですね。大概、講義中に思い付く感じで。

K： あ、分かります。自分もそうでした。基本的にずっとノートに軌道書いてて、これいけるんじゃないかとか思ったら講義終わりに練習してました。

Y： 参考にしたといえば、Home of poiのHPを見つけて、ダウンロードした最初の動画が確かニックの動画だったね。これが世界基準なんだ、すげえと思ってショックを受けて、ひたすら練習した覚えがあるね。しばらくして、ニックがその年、優勝した人だったんだって聞いて安心して。

K： Circle of Light（※Home of poiが主催していたswing系の動画コンテスト）ですね。

Y： 動画見ながら練習したけど、なんか違ったりして、なにが違うんだろうと思ったら、逆回転だったりして。アンチスピンフラワーも、3カ月ぐらいかかって出来るようになったり、そういうのを繰り返したり、自分で技を組み立てて練習していました。

K： なるほど。2006年に自分は大学に入学したんですが、そのときにはうちのサークルでもポイといえばYutaさんの動画を見ては『少し止まってどんな技なのかはよく分からない』みたいなことを聞きました。（笑）。それで半年ぐらい経って、秋ぐらいに初めて井の頭ポイに参加したんです。多分そこでYutaさんと初めて会ったんですよね。

Y： 確かそうだね。

K： Yutaさんの動画を見てはいたんですが、本物は凄くうまいんだろうと、mixiもそんなに広まってないころだったので。

Y： そのときはワークショップとショーをやったね。みんないい人だから面白いよね。ウクライナはてもいいですか。

Y： 確か2007年にPoismで行ったシンガポールが最初かな。ポイはその当時、自分たちが最先端だったと思うから驚くことはあんまりなかったんだけど、スタッフがあまりにもレベルが違うのでびっくりした。アンティーのスタッフ、すげぇ、かっこいいと思ったのは覚えてる。その後、オーストラリアとか、ウクライナに行ったね。ウクライナはすごかったな。

K： 凄かったとは？

Y： 向こうの人も予算が少なくて格安チケットの乗り継ぎだったから、大体過酷な乗り換えだよね。別室に連れて行かれて「おまえ、何しにロシアへ行ったんだ」みたいなこと聞かれたり。あとはモスクワの乗り換えで別の空港に行かなきゃいけなかったんだけど、「友達に頼んだからそいつのバイクで、二人乗りで行ってくれ」って連絡されて、初めて会う人のバイクの後ろに乗って、高速を飛ばして乗り継ぐみたいな。

K： 怖いですね。

Y： 「ところで君は誰なんだい？」って聞いたら、「俺も君のことは知らないけど、友達に頼まれたから連れてくんだ」って。当時はそういう過酷な招待のされ方の方が多かったね。

K： 今ではなかなかない過酷さですね。現地ではショーをしたんですか。

Y： そのときはワークショップとショーをやったね。みんないい人だから面白いよね。ウクライナは知らない人にはそっけないというか無関心だけど、友達の友達は友達っていう感覚で、みんなウエルカムでフレンドリーだったし、ちゃんと手伝ってくれるし助けてくれるから、空港と空港をバイクで飛ばしても何とかなる。もし今同じ感じで呼ばれたら、疲れて着いたとき何もできない気がしちゃうけど、あのときはすごかったな。まあまあ過酷な旅だったなと思う。

K： その当時の、ウクライナとか海外のポイはどうだったんですか。

Y： 当時から面白かった。ポイはその当時はうまいかどうかでいったら、そうでもなかったけど、ロシアとかウクライナはステージショーとか皆で何かしらショーをするのに長けていて。同じような構成が続いてちょっと見飽きるところはあったけど、10〜20分のグループショーをやってるチームが多いのは、日本では見れなくて面白かった。

その中でもやっぱりメルたちが一際うまかったね。「あいつがロシアで一番うまいんだ」っていわれてた。そのときメルは本当に若かったけど。

K： ロシアって、ファイアパフォーマンスが盛んなイメージがあるんですが。

Y： というか何でもありかな。ライトポイも作ってたし。自分達で作って、パフォーマンスを組み立ててるっていうことを、道具からやっている感じだよね。

K： クリエイティビティがすごく

あるんですね。

Y　自分が大学の頃に、たまたま寮で読んだ新聞に『今、モスクワではファイアダンスが熱い』みたいな記事が書いてあったんだけど、日本でもやっているのになと思いながら見ていたな。

K　日本のファイアーといえばＪａｐａｎ Ｆｉｒｅ Ｆｅｓｔｉｖａｌがあったと思うんですが、あれはどうやって始まったんですか？

Y　Ｊａｐａｎ Ｆｉｒｅ Ｆｅｓｔｉｖａｌはもともとと Ｎａｒａｎｊａ Ｆｉｒｅ Ｆｅｓｔｉｖａｌが２００５年と２００６年にあったんだけど、Ｔｏｍｏ（※ＰＯＩ ＬＡＢのメンバー）がＮａｒａｎｊａをやめてファイアパフォーマンスで独立するみたいな話になったときに、そのままＴｏｍｏの企画としてＪａｐａｎ Ｆｉｒｅ Ｆｅｓｔｉｖａｌになったっていう話だった気がする。

K　それで、Ｊａｐａｎ Ｆｉｒｅ Ｆｅｓｔｉｖａｌになったと。

Y　２０１２年まではＦｉｒｅ Ｆｅｓｔｉｖａｌ（※Ｊａｐａｎ Ｆｉｒｅ Ｆｅｓｔｉｖａｌ 2009, EN Fire Festival 2010, Fire Camp 2011, Fire Camp 2012, 428Festival）があって、13年にＦｌｏｗ Ｃａｍｐがあってって感じかな。

K　Ｆｌｏｗ Ｃａｍｐにはシリルも来てくれましたよね。

Y　シリルはたまたまロシアのイベントで一緒だったんだけど、ロシアのオーガナイザーに許可取って、そのまま日本に来てもらったんだよね。

K　なるほど、あの時は生で見れてとてもよかったです。めっちゃ上手でしたね。日本でファイアーができる機会ってなかなかないので、Ｆｉｒｅ Ｆｅｓｔｉｖａｌは安全講習をしてくれるし、体験させてくれるし、ファイアーのショーも見れるしとても良いですよね。

Y　またやりたいよね。

K　やりたいですね。そのあと、２０１５年にＰＯＩ ＬＡＢが生まれたんですよね。

Y　そうですね。

K　パフォーマンスチームを作ろうと思ったきっかけは何だったんでしょうか。

Y　２０１２年の冬頃にスロバキアのＡＴｅｃｈｎｏｌｏｇｉｅｓから、グラフィックポイを販売するためのプロモーションビデオを撮りたいと言われて一緒に撮影をしたんだけど、その後販売開始したら日本でもちょっとずつ見る機会が増えてきたんだよね。ただ、このままだと単にグラフィックポイっていう面白い道具を見せるだけのパフォーマンスがポイのパフォーマンスとして広まってしまうという懸念があった。

それをテレビとかが面白く取り上げて、ポイってただ回して絵が出るだけでおしまいにはなってほしくなかったから、そうなる前に、自分がちゃんとしたものを作ろうと思ったんだよね。そう思ってまずは映像を撮ったんだけど、たまたま映像監督の山田監督が見ていて、ドコモのＣＭに起用されたりして。そういう一つ一つに全力で答えていたら、ちょっとずつ広がったって感じかな。

K　かまたえんでのショーの時ですね。

Y　そうだ。おこたんぺ。が、「俺はＰｏｉｓｍっていう名前がだよね。あれはどこだっけ？

K　ユウタマンズがいい」って。

Y　ユウタマンズにならなくてよかったですね（笑）。

K　やらなきゃって思って、やるぞって思った矢先に紅白から話が来た感じだったね。

Y　そうですね。あのときは大変でしたね。

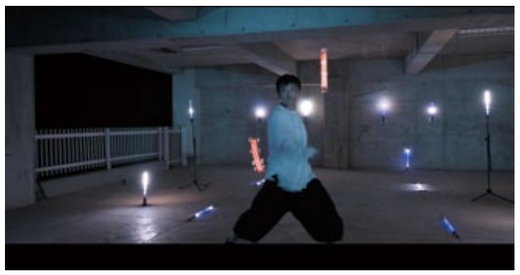
K　でも面白かったね。

Y　ゲストステージの話を聞いてもよいですか？

K　元々ゲストステージの出演の話を受けていたんだけど、一旦ＪＪＦ自体中止のアナウンスがされたでしょ。その時に出演も一度キャンセルになって。でも、ＪＪＦがオンラインでやる事になった後、８月末ぐらいに「映像でのゲストショーをやることになったのでよければ」ってもう一度出演依頼の連絡をもらったんだよね。でも、『刀剣乱舞』とかＤｒａｇｏｎ Ａｓｈとか案件が結構立て込んでいて９月に入るまで動けなかったんだよね。

そんな中で新宿雑技団のボー燃会っていうイベントが９月頭にあってその会場がファイアーも自由にできる場所だったからじゃあここで撮ろうって決まって。

そこから曲探しだったんだけど、著作権フリーの制限があったから、まずは使えそうな曲を選んで並べたんだよね。それに沿って構成を考えたら、オープニングは静かなところから徐々に光を増やしていくのが良いなと思って。あとはこれまでやっていたことを一度作品にしたかったので、ワンドとかＦＴｐｏｉ、Ｖｉｓｕｐｏｉのプログラムで１００％を見せたものから、一番綺麗でかっこいいと思ってるファイアーポイを使った一人称視点やバイノーラル音声表現まで、全てを組み込んだ作品作りにしました。



K　集大成ですね。ファイアーの映像、やらないと感じられないような雰囲気もわかってめっちゃよかったですね。

Y　ファイアーは『ここの部分は一人称で撮りたい』とか、『ドローンで撮りたいとか』シーン毎の構成を決めてから、ちょっとだけ振り付けを考えたんだけど、とても綺麗だったよね。「上から見ても面がこんなにきれいに見えるんだ。俺の軌道スゲェ（笑）」と思って、ドローン面白いなって思ったよね。

K　ライトの方はどうですか？

Y　ライトは曲に合わせてプログラムとざっくりした振り付けだけ組んでおいて、ちゃんとした振付は現地で照明組んで、並べて、さあ撮影っていうときに「ちょっと15分待って」って作ったね。その場でプログラム見ながら、このタイミングで光るぞみたいなやりながら。

K　すごい。

Y　やばかったよね、あれは。練習して撮って、次のシーンに移って、また「振り付け考えるから待って」って言って。「もう肩が上がらない。駄目だ」って言いながら。

K　ぎりぎりの戦いですね。

Y　もうちょっとちゃんと作っていったら、もっとよくなるのになと思いながら。でも、もう時間ないからしゃあないって。

K　自分、スイングパートは結構インプロ感があるなと思ってて見てたんですよ。でも、その割にはワンカットじゃなくて何回か撮ってたじゃないですか。でも、その振付が合ってるから、決まった振付があるのかな？　みたいな、ちょっと不思議な気持ちでした。スイングの勢い的にはインプロというか、その場でその時に合う動きを探してる感じなのに、複数カットで繋がっているのが。

Y　やりながら今の動きよかったから、そっからもう一回やろうかなみたいなので、ちょっとずつ重ねていったり、あとは編集力でごまかしてるところもあるよね。どうしても合ってないとこは反転させたりとか、そういうのもあったはず。この流れで編集してもつながらないから。でも、これ、反転さしたら同じ動きだなみたいなのをやってた気もする。

K　分かった人はいるんでしょうかね（笑）。

Y　多分、分かんねえだろうなっていうレベルでちょっとごまかしてたりとか。そういう編集はその前に「アートにエールを！」でのパフォーマンス撮影で結構鍛えられたから、ソロの編集は楽しかったな。その時に照明の明るさとかカメラの設定とか、ちょっとミスってるとこがあったから、今回はそれを踏まえて、そうならないようにどうすればいいのかなっていうのを考えながら撮りつつ。ＰＯＩ ＬＡＢのカメラマンのＴａｋｕ（※ＰＯＩ ＬＡＢのメンバー）も前回の経験からいつの間にか照明を買い足したりとかしてて。そこまでの全てのフィードバックをプラスに持ってって撮影したのが、あのライトの撮影だったもんね。

K　めっちゃきれいでした。

Y　ありがとう。「アートにエールを！」をやらずにあれ撮ったら、多分あんまりいい絵にならなかった気がする。でも、大体、俺ってるのはそんな感じかな。１回やって、反省して、もう一回やろうっていうのを繰り返してたら、あっという間に５年がたってしまったね。

K　そうですね。猛スピードで過ぎていきましたね（笑）。

Y　今回のは撮影が終わったのが26時くらいで、結構限界に挑戦しても、最後までいい感じに撮れた気がする。徐々に鬼気迫る感じの表情になってたんじゃないかな？　だんだん迫力とかオーラで何とかするしかないみたいな。

K　読んでる方も動画、公開されてるのでぜひ見返してみてください。もしかしたらちょっとずつ、最初から最後にかけて変わってきてるかもしれないですね。

Y　（疲労困憊で）あんなに斜めのストールを打つ俺は他にいないよねと思った（笑）。最後のシーンはファイアーだけど、ファイアーだけ2〜3日前に撮ってるから多分一番元気にやってる。

K　すごい裏話感があって面白いですね。

Y　ゲストステージ終わってからＫｏｍｅｉ君が「俺ら2週間で何とか作ったっていうのに、こんな映像いつから撮ってたんすか！」って言ってたってチュゲさんから連絡が来たんだけど、俺は10日前だよって（笑）。意外とクオリティーが高く見えてるから、前々から撮ったんだろうなって感じがするけど、そうでは全然なくて、めっちゃぎりぎりでした。

K　これまでの積み重ねがあったから出来たんですね。

Y　あの映像を見ても、なんか分かんないけどよかったなっていう感じに、皆なると思うんだけど、ショーとかパフォーマンスで大事なのって細かいディテールをどれだけやれるかだと思う。細かく見てもらえば『全部きれいだな』っていうのが、どうやってできているのかもしかしたらわかってもらえるかもしれない。

K　なるほど、ありがとうございます。ちなみにタイトルはどうやってつけたんですか？

Y　暉（Ｈｉｋａｒｉ）は編集後にタイトルを考えていて、ポイの軌跡の表現を追い求めた集大成の映像だから何かそういった意味合いのタイトルをつけようと思って考えまてました。そこでポイの光の軌跡、ヒカリに関するものにしようとおもったときに、妹の第二子が5月に生まれて、ヒカリ（暉）ちゃんだったので、コロナの影響で披露できなかった代わりに作ることになった映像作品に、コロナの影響でまだ生まれてから会えてないヒカリちゃんのなまえを付けて、いつかコロナ収まったところに大きくなった暉にこの映像を見せたいなと思って付けました。

K　そんな意味があったんですね。将来知った時、絶対喜ぶと思います！

Y　もっと裾野は広げたいですね。パフォーマンスをする人で、いろんなクリエーションをする人がもっと増えてほしいなと思う。ポイを見る機会とやる機会っていうのがあんまり多くないから、それを増やしたいなっていうふうには思っています。あとは、自分たちが一番かっこいいポイのパフォーマンスをつくるっていうのは２０１５年からずっと。

K　ＰＯＩ ＬＡＢの生まれた時からの目指すところはそうですもんね。

Y　この先もそれは続けるけども、いろんなポイのショーを見れる機会って今まだ少ないから、それを増やすことによって、多分もっとポイをやりたいって人が増えるんじゃないかなって思うんで、そういうイベントを何とかやれればいいのかなって思っています。

K　ありがとうございます。最後に読んでる方に一言お願いします。

Y　ジャグラーの皆さんもぜひまた井の頭ポイに遊びに来てください。

K　それはぜひ！　井の頭ポイは絶対1年後も続いてるので。

Y　井の頭ポイは不滅です。

K　ありがとうございました。

https://www.poi-lab.com

JapanJuggling オンラインステージ Online Stage 2020

日本ジャグリング オンラインステージ 2020

開催経緯

JJF2020チャンピオンシップが2020年9月19日に開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴い、参加者および観覧者の健康と安全の確保が困難であると判断し、2020年4月16日に開催中止が日本ジャグリング協会理事会から告知されました。

JJF2019チャンピオンシップは台風の影響により中止となり、2年連続でチャンピオンシップ開催が中止されたことになりました。

大規模なジャグリングコンペティションの中止によって日本のジャグリングが停滞する懸念に対し、日本ジャグリング協会はオンライン大会を開催しました。（理事会文書より一部引用）

開催概要

■ コンセプト

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)等の感染拡大を防ぎつつ開催できる大会の開催を通じ、世界に通用するパフォーマーの育成に寄与し、日本におけるジャグリングの発展を総合的に促進する。

■ 大会内容

定められた時間の中でジャグリングを主体とした演技を行い、その内容を審査する。

■ 開催方法

大会はすべてオンラインで行われ、予選と決勝を行う。

■ 競技部門

本大会では、男子個人部門および女子個人部門を設ける。

※詳細は公式サイトをご覧ください。 https://www.juggling.jp/jjos/2020/

スケジュール

出場申し込み 予選映像提出開始	出場申し込み 予選映像提出締め切り	予選結果発表	決勝
2020年 10/24（土）	10/31（土）	12/1（火）	12/19 19:00〜21:30

■ 決勝配信

決勝の配信はニコニコ生放送で行いました。 https://sp.live.nicovideo.jp/watch/lv329466090 ※現在は非公開

■ 公認解説者

公認解説者としてVtuberの三珠さくまるさんに、大会当日に決勝配信と同時枠で生実況・解説を行っていただきました。

Twitterアカウント @MitamaSakumaru

生実況・解説URL

https://youtu.be/tDFjVhg7Qto

■ 視聴者投票 「もっともすごいと思った人」に2名まで投票できる視聴者投票を行いました。

視聴者投票結果

1位	2位	3位
矢田部 裕貴	砂原 啓人	やまこうね
113票	80票	34票

道具の利用数（出場取り消しを除く）

道具	男子個人
ボール	2
ディアボロ	2
ポイ	1
フラワースティック	1
ステージボール	1
合計	7

予選エントリー

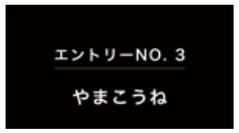
部門	組数
男子個人	7
女子個人	0
チーム	非開催
合計	7

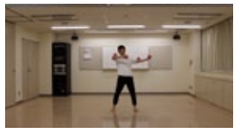
決勝進出

部門	組数
男子個人	7
女子個人	0
チーム	非開催
合計	7

予選審査委員

藤村保志花、宮田直人、亀井大輝、
渡邊隼人、世良京太（審査委員長）、
まさやん、鈴木志歩、
山下耕平、中西隼斗





審査委員総評　世良京太

未だ収束の気配を見せないコロナ禍。前例のない事態が世界全体を覆うなか、多くの人々がその活動に大きな制約を課せられることになりました。なかでも、ただひとつの自身の身体を拠り所に観客と向き合うジャグラーたちが被った影響はとても大きいと思います。このような状況下の中JJF2020チャンピオンシップは中止となりました。しかしJJFチャンピオンシップと同じ運営母体（審査委員含む）が主体となりオンライン形式での大会であるJJOS（Japan Juggling Online Stage）が開催されることになりました。この大会に出場された方々並びに、大会運営に携わった皆様に大変感謝致します。以下、今回の大会を通しての講評を書かせて頂きます。

本年度のJJOS予選は男子個人7名の応募がありました。予選審査では提出されたビデオを閲覧して、「完成度」、「難易度」、「構成」、「エンターテイメント性」、「希少性」について、全て同じ重み付けで評価をします。それぞれの内容については解説がJJFのホームページに公開されているので、ご参照ください。審査員はそれぞれ、決勝進出に値すると判断した出場者にOKを付け、OKの数の多い者が決勝に進出します。しかし今回の応募者総数が7名であり、「決勝進出者数は男子部門8組を上限とする。これを上回る数の応募があった場合は予選を行う。」と規定されているため、本大会では予選を実施せず全員決勝進出をしました。（私が知る中では、予選を実施して以降のチャンピオンシップで、初めて予選審査の無い大会ではないでしょうか？）日本ジャグリング協会主催の大会では初めてのオンライン形式の大会ではありますが、同じ形式のジャグリングの大会はすでに数件開催されており、多くの人が参加されています。今後もJJOSが継続して開催される場合は、遠慮せず参加して頂けたらと思います。

このように参加人数は少なかったにもかかわらず、それぞれが本当に素晴らしい演技を見せてくれました。優勝した砂原啓人さんは、ディアボロを2個使用するバタックストリックを持ち味とし、オリジナリティ・難易度・バリエーション・精度において、世界でも間違いなくトップレベルの演技を披露していただきました。次に準優勝した矢田部祐貴さんは、複数のフラワースティックを用いた高難易度かつ希少性の高い技を高密度で詰め込んだ演技をしていただきました。この演技は視聴者の印象に強く残り、オンライン上で実施した視聴者投票の中で一番多く支持を獲得し、視聴者特別賞を獲得しました。また3位入賞した、やまこうねさんは、難易度と希少性のある3つのテールボイを用いた技のみならず、屋外での撮影・衣装・曲・技の選択などを含めテールボイの魅力を引き出す非常に良い演技であったと思います。従来の舞台上での演技とは違い、撮影場所を自由に選択できるオンライン大会の性質を最大限に引き出していると思いました。また受賞した3名以外の方々も、それぞれが自分の強みを表現し、オンライン形式のルールのもとそれぞれの方法で勝ちに行く姿が見られました。オンライン形式の大会のルールを意識した演出の例の一つとして、カメラの画角による見え方の違いが挙げられます。具体例として手元で行う細かな技並びに演出はカメラの近くで行い、一方高さが必要な技は逆に離れて行うといったものです。特に細かな技・演出についてはオフライン形式の大会に比べ動きを詳細に見ることができ、見ている側の印象はとても良くなります。これらはオンライン形式の大会だけでなく、オフライン形式の大会の予選動画撮影においても、検討すべき項目だと思いました。

最後に2019年は台風、2020年はコロナウィルスにより2年連続でJJFチャンピオンシップが中止に追い込まれており、ジャグリング界の発展にとても厳しい状況となっています。次回大会が実施される時期も恐らく、コロナウィルスの収束の目処は立っていないと思われます。しかしコロナの流行初期に比べ、現在は舞台公演におけるコロナ対策のガイドラインが整いつつあり、チャンピオンシップ応募者及び、観客全員が満足する最適解をチャンピオンシップ運営スタッフのみなさまが検討中と伺っています。我々、審査委員一同も「withコロナ」の中であっても変わらず、これからのジャグリングの発展に貢献していきたいと強く思います。

決勝集計

項目	集計値
演技時間合計	34分42秒
制限時間オーバー	0組
ドロップ回数合計	4

JapanJuggling オンラインステージ Online Stage 2020

男子個人部門　審査結果

1位　砂原 啓人

2位　矢田部 裕貴

3位　やまこうね

[男子個人部門]

演順	登録名	A	B	C	D	E	F	G	順位点合計
1	砂原啓人	1	1	2	1	1	1	1	65
2	ON	6	6	5	7	5	5	5	10
3	やまこうね	3	4	3	5	2	2	3	27
4	市川卓	4	7	4	6	6	4	6	12
5	矢田部裕貴	2	2	1	4	3	3	2	36
6	工藤正景	5	3	6	3	4	6	4	8
7	暮井透	7	5	7	2	7	7	7	7

名前の後の7個の数字が7名の審査委員のつけた1位～6位です。7名の審査委員は匿名で、左から A、B、C、D、E、F、G さんとします。 部門によって並べ方が違うので、例えば男子個人部門のA審査委員と女子個人部門のA審査委員は別の人である可能性があります。順位点は1位から順に 10、5、4、3、2、1 点となります。(7位以降は0点)

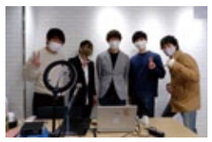
決勝審査委員　藤村保志花、亀井大輝、世良京太（審査委員長）、まさやん、鈴木志歩、山下耕平、中西隼斗

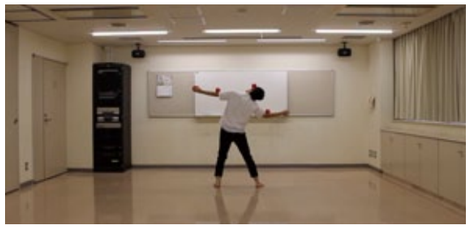
映像配信ツール	ニコニコ生放送
配信URL	前半 https://nico.ms/sm38024952 後半 https://nico.ms/sm38024419
最大閲覧者数	1371人

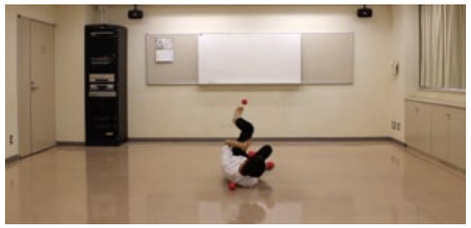
司会者氏名	福島千紘
実況・解説	三珠さくまる（Vtuber）

JJOS 大会事務局名簿（実行委員名簿）

氏名	備考
小野口貴仁	事務局長
加藤裕也	事務局員
諏訪浩貴	事務局員
裏垣翔野	事務局員
尾納宗仁	Web管理（HP作成）
西野順二	アドバイザ







JapanJuggling オンラインステージ Online Stage 2020

日本ジャグリング オンラインステージ 2020

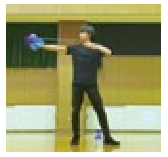
日本ジャグリング
オンラインステージ

決勝出場者

JapanJuggling オンラインステージ Online Stage 2020

日本ジャグリング オンラインステージ 2020

日本ジャグリング オンラインステージ 入賞者コメント



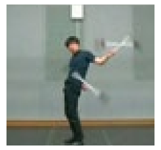
男子個人部門　1位

砂原 啓人

ＪＪＯＳ２０２０男子個人部門優勝を果たすことができ、嬉しく思っています。このルーチンを使おうと考えていた中部学生大会、ＡＪＤＣやＪＪＦＣＳが中止となって遣る瀬なく思っていましたが、日の目を見て良かったです。ありがとうございました。

ドーナツに入会後、本気でジャグリングを始めたのは１回生の冬頃、縦ディアにハマったのがきっかけです。その後、ドーナツの先輩である齊藤さんに２縦を教えていただき、方向性が定まりました。ＪＪＦＣＳの出場は、ＪＪＦ２０１８あたりから意識していたと思います。毎年サークルの先輩方が挑戦しているのを見て、憧れを抱いていました。ＪＪＦＣＳ出場のため地道に練習し、縦の技術を磨きました。その結果が今回のルーチンです。ルーチンの構成は、ドーナツの先輩の貫井さんの案に依るところが大きいです。縦の魅力を感じていただければ幸いです。

優勝できたのは、サークルの環境、ディアボロの先人の技術、支えてくれた家族のおかげです。お世話になった方々と、コロナ禍でＪＪＦＣＳ相当のオンライン大会を開催してくださった運営の皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。ＪＪＦＣＳの舞台に立つことは叶いませんでしたが、今後の糧となりました。オフラインの大会でも勝てるよう、精進します。

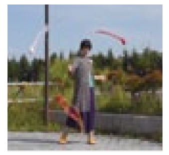


男子個人部門　2位

矢田部 裕貴

２０２０年はジャグリング界隈のみならず社会にとって大きな変化の年となりました。あらゆるイベントは中止になり、一時は公園に練習に行くことすら憚られる情勢でした。私もエントリーした３ヶ所の学生大会が尽く中止になりモチベーションが地に落ちていました。そんな中このＪＪＯＳの開催が告知されました。提出された動画により順位を決するという、コロナ前は（おそらく）存在しなかった形式での大会であり、普通本番では出来ないようなハイリスクな技を詰め込んだルーティンを披露したいと思い参加を決めました。

9月と10月の週末をすべて費やし撮影したルーティンは１ドロップで２位とあと１歩及ばない結果とはなりましたが、フラワースティックのデュアルという極めて狭いジャンルに特化した強みを少しでも感じていただけたなら嬉しい限りです。また体育館に集って練習できる日を心待ちにしながら技を磨いて参ります。



男子個人部門　3位

やまこうね

このたびは、ＪＪＯＳを開催していただき、出場の機会を作っていただけたことを大変ありがたく思います。また、３位の賞をいただきとても光栄です。私は、２０１２年のＪＪＦチャンピオンシップに挑戦しようとしたことがあり、その時は病気と怪我によって予選動画を送ることすらできなかったのですが、今回やっとその挑戦のチャンスが巡ってきたところでした。（詳しくは、私のｎｏｔｅにまとめています。「やまこうね　ｎｏｔｅ」でググってみてください）そのため、今回受賞できたことの喜びもひとしおでした。ＪＪＦＣＳ系列ではポイで出場・入賞する方が今まで多くなく、マイナーな印象でした。さらに、コンタクトポイでなく、テールポイで出場する方は今まで誰もいなかったと思います。コンタクトポイはジャグリングとして色々な技が出来てとても面白い道具だと思います。プレイヤーも多く、発展を続けています。ですが私はテールポイの見た目の華やかさが好きでずっと使ってきました。そのテールポイで受賞できたことが、今後のテールポイ発展の一助になれば嬉しいです。

コロナ禍で世界中の人々が大変な思いをしていますが、一方でジャグラーの間ではオンラインでの練習会や大会などが盛んになってきています。

私の住んでいる北海道では、今まで関東や関西で行われる練習会や大会には地理的な要因でなかなか参加できず、自分だけでは得られない技術を教わる機会がなく、また会場の雰囲気もわからないことが多かったのですが、オンラインのイベントが増えたことでそれらに触れるチャンスができ、本大会へも参加できたことは自分にとって渡りに船でした。

コロナの一刻も早い収束を願いつつ、収束後もオンラインのイベント等は継続する流れが残ればいいなと思っています。

最後に、Ｔｗｉｔｔｅｒなどで応援してくださった方、感想やコメントをくださった方々にはとても励まされました。ありがとうございました。

JJF2020　活動報告

2020年9月20－21日の二日間、"ジャパンジャグリングフェスティバル（以下、JJF）2020" が行われました。例年とは異なり、オンライン・オフライン混合の初めての試みでありながら、当日は現地開場に2日間合わせて300人以上の方にご来場いただき、またオンライン会場も200人以上の方に利用いただきました。ご参加いただいた皆さまありがとうございました。

JJF開催から2週間が経ちました。現在のところ、JJFに参加された方の中で新型コロナウイルスに感染したという報告はJJF実行委員会に上がっておりません。そのため、これをもってJJF2020が無事終了したことを報告させていただきます。 あわせて、JJFが無事終了したことを受けJJF当日の写真を公式HP・SNSで掲載いたします。

2020年現在、コロナウイルスの感染拡大に伴い、様々なジャグリングイベントが中止・1年以上の延期となりました。1999年から21年目を迎えようとしていたJJFも当初の計画であった福井県での3日間のイベント開催について計画の変更を余儀なくされました。

日本ジャグリング協会では、「ジャグリングの健全な普及と振興を通じて日本国内におけるジャグリングの発展に寄与すること」を目的に掲げており、これを満足するためにリスクを最小化できるイベントの実施を模索し推進いたしました。また、同時にJJF2020は以下に述べる理念を達成することに主眼をおいて計画が開始されました。

１つめに、コロナ禍のジャグリングイベントの礎を作ること。リアルな場所でのイベントが難しい一方で、ジャグリングはオンラインイベントに移行しづらいといった側面があります。その理由として、オンラインのジャグリングイベントは参加するためにインターネット環境が必須でありそのためジャグリングの練習が制限されること、画面を見ながらジャグリングするには視覚的制約があるなどが挙げられます。そのため、オフラインのジャグリングイベントは必須であると私たちは考えました。そういったジャグリングイベントをコロナ禍であっても行うことで練習環境が少ないジャグラーの方にジャグリングを続けてほしいということを理念としました。

２つめに、今までのJJFの雰囲気をオンラインでも再現すること。JJFは前述の通り今年で21回目を迎える日本で一番大きなジャグリングイベントです。また、規模も大きく、二泊三日の期間、寝食を忘れジャグリングに没頭するイベントです。そんなJJFを例年と異なる形でも再現したい、というのが、このイベントの生まれたきっかけであり、それを満たすことをコロナ禍で行うJJFの理念としました。

最後に、全国の人が参加できるイベントであること。オンラインイベントは "日本全国どこからでも参加が可能" といった大きなメリットがあります。また、例年JJFは大きな一つの会場を貸し切りイベントを行っていますがJJF2020では会場を全国に分散・配置することでジャグリングイベントに気軽に参加できる（敷居を下げる）ことを理念としました。

また、JJF2020を通し、新型コロナウイルスの感染対策に関する情報をHP上にまとめて掲載しています。今後オフラインイベントを計画される方は改良して利用していただければ幸いです。

最後になりますが、JJF2020を実施するうえで大変多くの方にご協力いただきました。納期が短い中対応を引き受けていただいたJJF2020実行委員会共同代表の上田さん・花田さん、会場の確保から会場の指揮まで担当していただいた各会場代表者の方々、オンラインイベントの肝となる部分を担当していただきその他マネジメントまでご尽力いただいたWEB統括尾納さん、感染対策にあたりガイドラインの作成から当日の待機をしていただいた救護・感染症対策統括皿回しジャグラーまさやんさん・現地救護班の方々、その他たくさんの人々に支えられて本イベントは開催することができました。深く感謝申し上げます。

JJF開催にあたり、スピード感が足りないことや広報が不足している点などについて外部からお叱りを受けることがありました。上記のように日本ジャグリング協会として不足している点が多々あります。今後、JJFをより良い形で継続していくために、協会として尽力していきたいと思いますので皆様にはこれからもご意見ご要望をお知らせいただけますと幸いです。

2020年10月5日
日本ジャグリング協会 JJF担当理事
星野 充宏

理事会から

日本ジャグリング協会正会員の皆様
役員選挙を10月17日（土）にて行い、日本ジャグリング協会の今年度役員が決定しましたのでここにお知らせいたします。

理事（6名）※届出順
・浦和　新
・吉永　裕紀
・後藤　猛文
・米屋　遊
・小野口　貴仁
・星野　充宏

監事（1名）
・松岡　寿典

【所信】

浦和　新　氏

浦和新と申します。本年で理事への立候補は3年目になります。
昨年度は著作権・広報・ウェブ・検定を担当しましたが、本年度も引き続き担当させていただき継続及び発展を目指していく所存です。
また、理事のみなさんの各種お手伝いもさせていただこうと思っております。
広報より連絡がありましたが2020年度内にはジャグリング検定のオンライン受検を予定しておりますのでまずはそちらに力を入れていきます。
ジャグリング協会では様々な活動が行われており、JJFはもちろんSWJ、普及委員会のようなものは広報・ウェブの担当として皆様のもとに情報をお届けできればと思っております。
2020年は2019年に続きJJFチャンピオンシップが残念なことに開催されませんでしたが、オンラインステージにて著作権関係はサポートさせていただきます。
本年度も理事として責任を持って活動していきたいと思いますので皆様何卒よろしくお願いいたします。

吉永　裕紀　氏

こんにちは。日本ジャグリング協会の2019年度理事長を務めた吉永裕紀と申します。
日本ジャグリング協会は多くの方のお力添えのおかげで、創設から20年という長い間存続し続けることができました。歴代の理事の皆さまや会員のみなさま、ご協力くださった多くの関係者に御礼申し上げます。
コロナの影響もあり世界が目まぐるしいスピードで変わり続けている現代において、私達の団体も新しい時代に合うように変化していく必要があると感じています。
その中で、私は昨年度に組織のソフトと呼ばれる部分（スタイル、スタッフ、共通の価値観など）について重点的に改善するための活動を行ってきました。
今年度理事になることができれば組織のハードと呼ばれる部分（組織構造、システムなど）について重点的に改善する活動をすることで、次の時代を作るための組織の土台作りをしたいと考えています。

◆昨年度の主な取り組み
・理事会の議事録公開
・過去のShall We Juggle?をWeb上公開
・ジャグリング普及委員会立上げ・推進（学童施設へのジャグリング道具寄付活動）
・ジャグリング動画制作部門（仮）立上げ・推進
・JJF2020の8拠点同時開催、推進補佐

◆今年度の取り組み予定
・日本ジャグリング協会の定款や細則、倫理規定の見直し
https://www.juggline.jp/aboutus/articles.html
https://www.juggline.jp/aboutus/articles_bylaws.html
・ジャグリング協会の組織図、権限範囲の明確化及び変更

など

ジャグリング協会は歴史も長く、それゆえに培ってきた団体運営のノウハウや実績が多く存在します。一方で、数年前には考えられなかったようなスピードで世界が変わっていく中で、一部実情と合わなくなっている部分がうまれつつあります。その部分を変えることでより迅速な対応ができるようにし、私たちの理念である「ジャグリングの健全な普及と振興を通じて日本国内におけるジャグリングの発展に寄与する」ことで、より多くの人に価値提供できるようにしていきたいと考えています。
2021度以降にジャグリング協会とともに活動する人たちがより動きやすくなるよう、今年は団体の土台を作る年にしたいと考えており、上記を所信表明といたします。
何卒、よろしくお願いいたします。

後藤　猛文　氏

こんにちは後藤猛文と申します
12年前42歳の時、当時5歳だった双子の子供と一緒にジャグリングのショー見ていて、『とうちゃんもあれできるやんな！』の声に『できるよ！』に返事をしてしまったのがきっかけで、練習を始めましたこんなに楽しいジャグリングを他の人にも伝えていきたいと『広げよう！ジャグリングの輪』を合言葉に練習会を当時毎週のように開催していました
たくさんのジャグラーさんに巡り会い今も楽しくジャグリング教室やクラブをを続けています
またWJDin大阪の運営も行っていますしたくさんのジャグリングイベントにも関わらせていただいています
JJAの関わりとしては今年度ジャグリング普及委員会の委員として活動をさせていただいています
今年度行われたJJF2020では、大阪会場のスタッフをさせていただきました
ジャグリングは心、身体、頭すべてに良い効果をもたらす画期的なもので文化／芸術／スポーツなど様々なシーンで活躍できるアイテムです
年齢に関係なく楽しめるこのジャグリングをさらに普及させていきたいなと考え今回立候補させていただきましたたくさんの方と交流し刺激され自分自身も成長できればと思っていますよろしくお願いします

米屋　遊　氏

日本ジャグリング協会誌ShallWe Juggle?（以下、SWJ）担当理事の米屋遊です。
2019年度はコロナ禍によって、編集委員の生活も変化し、SWJの編集が大幅に遅れておりますことをお詫び申し上げます。現在、最終チェックの段階であり、コロナ禍の影響がなければ、12月までの発送を目標にしております。

SWJ編集部の事業として2019年度はSWJのバックナンバーを修正が完了した号からPDF化し、日本ジャグリング協会のwebページにUPしております。こちらも少しずつではありますが、進めていく所存です。
2020年度は以下のようなことに取り組む所存です。

1　日本ジャグリング協会の歩みをまとめ、残すこと
　JJF2020は初めてのオンライン・オフライン共同開催となりました。ただいま鋭意取材中です。また、12月開催予定の「日本ジャグリングオンラインステージ（Japan JugglingOnlineStage）」もきちんと取材し、皆さんの思いが記録として残る内容で発行します。
前年度同様に、SWJ編集部で撮影した過去の映像資料の整理、編集に関して、今後の理事会で提案し、対処できるよう働きかける所存です。

2　SWJ編集部員の拡充と編集システムの再構築
2019年度はコロナ禍により、編集予定が大幅に乱れました。今後も継続して編集部員の拡充とこれからの生活様式に沿った編集システムの再構築を進めます。

今後ともよろしくお願いいたします。

小野口　貴仁　氏

この度日本ジャグリング協会の理事に立候補いたしました小野口です。
2016年度からJJF チャンピオンシップステージ（CS）事務局に入局し、現在まで、CSのスムーズな運営に尽力して参りました。
予選では予選映像の管理を担当し迅速な審査に貢献しました。決勝では演技時間計測や、出場者への情報伝達役をつとめ公平な決勝の運営を支えて参りました。2019年度はCS事務局長として、予選応募者からのお問い合わせ対応や、決勝の司会原稿の作成などCSをサポートしてきました。
そして2020年度はCS担当理事として開催要項の策定など、CSの開催に向け準備をしておりました。
しかし、残念ながらCOVID-19により開催は見送られました。そのため、完全オンラインのコンペティション「日本ジャグリングオンラインステージ」の準備を現在進めております。
所信として以下の3点を挙げさせていただきます.

1　日本ジャグリングオンラインステージの開催
日本ジャグリング協会が提供する新しいコンペティション、「日本ジャグリングオンラインステージ」を開催します。COVID-19下でも安心して参加でき、CSのようなハイレベルで盛り上がる大会になるよう精進して参ります。

2　大会の安定的開催
COVID-19の状況を鑑みながらCSもしくは日本ジャグリングオンラインステージの開催を続けていきます。

3　審査委員候補の公募の継続
審査委員候補の推薦および公募を行う予定です。皆様のご応募お待ちしております。

星野　充宏　氏

昨年度の取組
JJF2020 推進
ジャグリング動画チーム 推進補佐

今年度の取組
JJF2021推進に向けた取組
JJF実行委員会の安定化
寄付化事業 推進

昨年度理事でした星野充宏と申します。今年度も理事として立候補致します。
私は特段優れた人物ではないと考えています。
しかしながら、現在日本ジャグリング協会は人的資本が不足している状況にあります。
10年後20年後日本ジャグリング協会が続き、優れた人物が日本ジャグリング協会として健全に仕事ができるように、繋ぐことを目的に粛々と仕事ができたらと思います。
2　理事のうち1人を理事長とする。

松岡　寿典　氏

おかげさまで日本ジャグリング協会の監事として7年間務めさせていただきました。
8年目も監事として立候補します。
まずは新型コロナウイルスの感染拡大によりオフラインイベントの開催が困難となる中、本来のJJF2020in福井に代わり皆様の協力を得てオンラインも併用した形でのJJFが開催され、感染者を出すことなく終了したことを喜ばしく思います。あらためて実行委員の皆様や参加者の皆様ありがとうございました。
さて年数を重ねて見える範囲が広がっていることも理由としてあるのかもしれませんが、監事として指摘する件数が先期は多くありました。
指摘事項の内容によっては皆様への報告が必要になることもあるかもしれませんが無いに越したことはないですね。
今回で8度目の立候補となります。
他に監事立候補者がいるかどうかわかりませんが、当選の暁には例年同様に仕事をしますのでよろしくおねがいします。

【ご参考】
（役員）
第13条　本会に次の役員を置く。
理事　　3名以上
監事　　1名以上

日本ジャグリング協会オフィシャルマガジンShall We Juggle？No.62
発　行　　特定非営利活動法人日本ジャグリング協会　Shall We Juggle? 編集部

【Shall We Juggle? 編集部】
編集長　　たまきゆかり
副編集長　　米屋遊
編集主幹　　たまきゆかり
編集員　　岡本光平　植野洋子　瀬田カズヒロ　りん　西野順二　まゆこ
レイアウト　　いけやん
協会誌担当理事　　米屋遊
E-mail　　swj@juggling.jp
Web　　https://www.juggling.jp/swj/

【日本ジャグリング協会事務局】
E-mail　　info@juggling.jp
郵便為替口座　　00100-10142916
（加入者　日本ジャグリング協会）
■各種お申し込み・お問い合わせは上記事務局までお願いいたします。
■本誌は日本ジャグリング協会の協会員に無料で随時送付されます。

日本ジャグリング協会webサイト
https://www.juggling.jp/

JJF2021は
東京にて
開催予定！

Japan Juggling Festival 2021 in Tokyo

開催日程 2021

10／9（土）▶ 10／11（月）

開催場所 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）

※開催情報については日本ジャグリング協会公式Webサイトまたは公式Twitterをご確認ください

Web サイト：https://www.juggling.jp/　　Twitter：@JJFofficial_twi